

近畿大学大学院

- 法学研究科
- 商学研究科
- 経済学研究科
- 総合理工学研究科
- 建築学研究科
- 情報学研究科
- 薬学研究科
- 総合文化研究科
- 実学社会起業イノベーション学位プログラム

東大阪キャンパス
〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1
アクセス方法 ●近鉄大阪線「長瀬」駅下車 徒歩約10分
近鉄奈良線「八戸ノ里」駅下車 徒歩約20分、JRおおさか東線「長瀬」駅下車 徒歩約20分

■ 農学研究科

奈良キャンパス
〒631-8505 奈良市中町3327-204
TEL.(0742)43-1849 FAX(0742)43-1155
アクセス方法 ●近鉄奈良線「富雄」駅下車 バス約10分

■ 医学研究科

おおさかメディカルキャンパス
〒590-0197 大阪府堺市南区三原台1-14-1
TEL.(072)288-7222 FAX(072)298-1677
アクセス方法 ●南海泉北線「泉ヶ丘」駅下車徒歩6分

■ 生物理工学研究科

和歌山キャンパス
〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷930
TEL.(0736)77-3888 FAX(0736)77-7011
アクセス方法 ●JR阪和線「紀伊」駅下車 近畿大学行バス約20分

■ システム工学研究科

広島キャンパス
〒739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺1番
TEL.(082)434-7006 FAX(082)434-7011
アクセス方法 ●JR山陽本線「西高屋」駅下車バス約5分

■ 産業理工学研究科

福岡キャンパス
〒820-8555 福岡県飯塚市柏の森11-6
TEL.(0948)22-5655 FAX(0948)23-0536
アクセス方法 ●JR福北ゆたか線「新飯塚」駅下車 バス約5分

<https://www.kindai.ac.jp/graduate/>



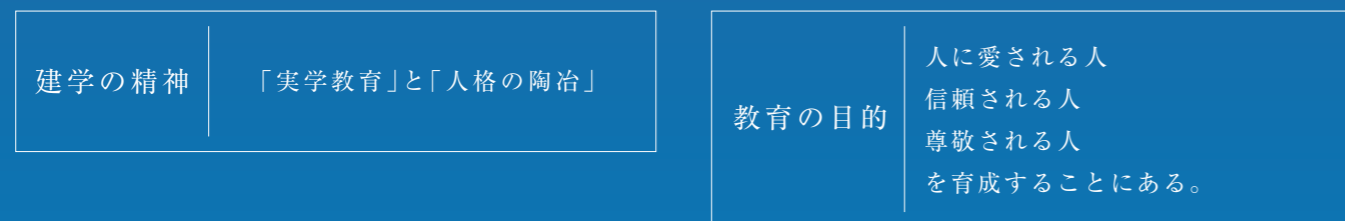
インタビュー記事の内容およびプロフィールは、取材時のものです。 2026年5月発行



最先端の理論や技能を応用し 世の中の文化の発展に貢献できる人材を育成する。

近畿大学大学院では、建学の精神と教育の目的に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神を持って未来を志向しつつ実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

近畿大学学園



「社会と呼応し、貢献できる大学へ」 創設者の情熱が息づく探究の府。

「医学部から文学部まで全学部を揃えたい。全ての日本人が大学教育を受けられる時代を見据えた先駆けモデルとなる大学をめざす」と初代総長のビジョンは、ほぼ完璧に現実になっています。「実学教育」と「人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成すること」を教育の目的にする。世耕弘一が人生をかけて思い描いた理想の教育、それが近畿大学であり、現在もその精神が受け継がれています。



略譜
(明治26年生～昭和40年没 和歌山県出身)
大正12年、日本大学を卒業後、朝日新聞社に就職。
ドイツ留学を経て、昭和6年に日本大学教授に就任。
翌年、39歳で衆議院議員に初当選(以降、8回当選)。
昭和24年、近畿大学を創設し、初代総長となる。
昭和34年、第二次岸内閣の国務大臣に就任。
昭和38年に藍綬褒章、40年に勲一等瑞宝章を拝受。
没後、従三位に叙せられる。

初代総長 世耕 弘一

近畿大学大学院は、建学の精神および本学の教育の目的に基づき、学士課程を基盤として、高度な専門知識と高い倫理観を兼ね備えた「実学を具現化できる知のプロフェッショナル」を育成することを目的として、1952年に設置されました。以来、多様な人材を社会に輩出し、学術の進展および社会の発展に大きく貢献してきました。

現在、AIをはじめとするデジタル技術の急速な進展により、社会環境はかつてないスピードで変化しています。こうした時代の要請に応えるため、本学では大学院教育改革を推進し、令和8年4月に建築学研究科、情報学研究科、ならびに総合理工学研究科エネルギー理工学専攻を開設しました。さらに、実学社会起業イノベーション学位プログラムを設置し、起業家精神とアントレプレナーシップを備えた、社会に新たな価値を創出できる人材の育成にも積極的に取り組んでいます。

本大学院において学生一人ひとりが、深い教養と高度な専門知識を修得するとともに、分野の枠を越えて知を統合し、社会課題の解決に主体的に挑戦することを期待しています。

そして、その成果により社会を牽引し、人々に夢と希望をもたらす「知の創造と活用」を先導する存在へと成長してくれることを願っています。



近畿大学 学長
松村 到

大学院生サミット

院生サミットは、13の研究科に実学社会起業イノベーション学位プログラムを加えた14の異なる分野の大学院生と教員が一堂に会し、発表と議論を行う本学ならではの研究イベントです。学会とは異なり、本サミットは研究を「深める」場であると同時に、「広げる」場でもあります。専門の異なる分野の学生や教員を相手に、自身の研究の意義や面白さをどう伝えるのか、普段とは異なる視点や言葉で説明する力が求められます。また、他分野の研究に触れることで、単に新しい技術を知るだけでなく、

研究の進め方や考え方といった「方法論」を学ぶことができます。大学院で専門知識を修得し研究を行うことは、必ずしもアカデミアに進むためだけではありません。近畿大学大学院は、実学の理念に基づき、分野や進路を越えて社会で成果を生み出せる柔軟な人材の育成を目指しています。院生サミットは、まさにそうした力を涵養する場です。院生サミットを利用し、自分自身と研究を次のステージに引き上げましょう。

大学院部長 細川 宗孝 教授

第12回院生サミット報告

テーマ：近大院生のイノベーションで2050年(地球環境問題、日本の超高齢社会、世界紛争)に立ち向かう

商学研究科長 古殿 幸雄 教授

2024年9月28日(土)、近畿大学東大阪キャンパスにおいて「第12回院生サミット」が開催されました。当初は、8月31日(土)に開催の予定でしたが、台風10号の影響により、安全性を第一に考えての順延開催となりました。このような状況下でも、参加人数は345名(大学院生222名、教職員等123名)となり、盛況裡に幕を閉じました。今回のテーマは「近大院生のイノベーションで2050年(地球環境問題、日本の超高齢社会、世界紛争)に立ち向かう」です。深刻化する気候変動や生物多様性の喪失、戦争や紛争、エネルギー・食料危機、相対的貧困を含む様々な社会格差、先進国の少子高齢化の問題等々、地球規模の様々な脅威に直面する私たちが、SDGsへの取り組みを加速させ、その先となる2050年を見据えた持続可能な未来に向けた歩みを行う必要があります。そのために、近畿大学大学院の全研究科が集い、2050年に立ち向かうという意味を込めました。このテーマに関連した7つのセッションで42件の口頭発表があり、175件のポスター発表が行われました。各研究分野に精通したアドバイザー教員の参加や全研究科からの大学院生・教員による活発な議論や質疑応答が各発表会場で展開されました。特別講演には、東京大学名誉教授・早稲田大学大学院経営管理研究科ビジネス・ファイナンス研究センター研究院教授の藤本隆宏先生をお招きし「産業界のすすめ-CAP フレームワークで考える-」と題してご講演いただきました。今回の院生サミットが、とりわけ近大院生のイノベーションが、2050年を見据えた持続可能な未来に向けた大きな一歩になることを願っております。



第13回院生サミット報告

テーマ：近大院生のチャレンジ力で不確かな社会を切り拓く～人と環境に優しい社会を創る～

産業理工学研究科長 金島 岳 教授

2025年8月28日(木)、近畿大学福岡キャンパスにおいて「第13回院生サミット」が開催されました。総勢307名(大学院生・学部生158名、高校生24名、関係機関4名、教職員121名)が集い、盛況のうちに幕を閉じました。今回のテーマは「近大院生のチャレンジ力で不確かな社会を切り拓く～人と環境に優しい社会を創る～」です。環境問題や自然災害、さらには食料需給の不安定化など、複雑にからんだ課題に直面しています。これを、近畿大学大学院のチャレンジ力と知力を集め、SDGsの視点で未来を切り拓き、人と環境に優しい社会を創ることへの思いをこのテーマに込めました。特別講演では、熊本大学・卓越教授、九州大学・名誉教授、国立高等専門学校機構・参与の中島寛先生をお招きし、「九州における半導体産業の活性化と半導体人材育成」と題して、社会を支えるために不可欠な半導体デバイス、それを担う人材についてご講演いただきました。口頭発表は6つのテーマで36件、ポスター発表は100件の発表が行われました。各研究分野のアドバイザー教員、異分野の大学院生・学部学生・教員による多角的な視点からの討議、さらに、高校生によるポスター発表での積極的な質問など、活発な議論が行われました。今回の院生サミットが、研究科・キャンパスを超えて交流を深める貴重な場となり、近畿大学院生の研究をさらに発展させ、新たな視点で課題を切り拓く大きな力となることを願っております。





近畿大学大学院の教育・研究・社会貢献を通じた 持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献

2015年9月末に開催された「国連持続可能な開発サミット」において、国連加盟国が持続可能な社会の実現に向けて2016から2030年の15年間の人間、地球及び繁栄のための行動計画(2030アジェンダ)として達成すべき17のSDGs(Sustainable Development Goals;持続可能な開発目標)が採択されました。この持続可能な開発の定義は、将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現代のニーズを充足する開発であり、その達成のためには、3つの主要素(経済成長・社会的包摂・環境保護)を調和させることが必要であるとされています。現在、各国の政府関係機関・地方公共団体・企業・大学・市民団体などで、各目標の達成に向けた取組みが検討され、実施されています。

近畿大学大学院は、建学の精神「実学教育と人格の陶冶」のもとで、高度な専門的知識と倫理観を規範に主体的に考えて行動し、新たな知とそれに基づく価値を創造できる「社会の要請に応える実学を具現化できる知のプロフェッショナル」の養成機能と研究・社会貢献の責務を果たしています。近畿大学大学院は、これらの社会的責務の遂行との関わりにおいて、SDGsの達成に向けた積極的な取組みを実施しています。以下に、本大学院14研究科において、SDGs達成に向けて実施している取組みを紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



各研究科におけるSDGs達成に向けた取組み

法学研究科

法政策研究を通じて公正かつ平等で幸福を追求できる平和な社会の実現に寄与します

法学にはあらゆる社会システム構築のために必要不可欠な技術的学問という側面がありますが、特に、労働安全衛生に配慮した労働政策、環境意思決定への市民参加、環境に責任をもつ街づくり、ジェンダー平等の実現等の研究に注力しています。



商学研究科

豊富な教員スタッフが各々の研究教育を通じてSDGsのゴールをめざします

商学、経営学、会計学、ITビジネス、キャリア・マネジメント学、スポーツマネジメントの6つの分野にまたがる約50名の教員スタッフが、各々の研究教育分野に関連するSDGsの目標別にそのゴールをめざして取り組んでいます。



経済学研究科

限りある資源の最適配分に取り組む経済学。SDGsに経済学研究科として寄与できること

生物資源の持続的な利用や大気汚染の問題に取り組む環境経済学、経済・教育格差や貧困の問題に取り組む経済成長論や開発経済学、住み良い街づくりに貢献できる都市・地域経済学などの専門家が力を活かしています。



総合理工学研究科

先進的な研究や技術開発を通して大胆な発想力とグローバルな視点をもつ研究者・技術者や教育者を育成

国内外での最先端分野の研究や技術開発に挑み続けることで、活発な実行力、大胆な発想力、グローバルな視点を身に付け、高い倫理観とともに日本の掲げた「SDGsモデル」に貢献し、持続可能な世界の実現をめざします。



建築学研究科

総合的な建築学の知見と実践力でSDGsの課題解決をめざします

建築学研究科では総合的な建築学の知見と実践力をもち、高い倫理観をもって社会に貢献する人材育成とプロジェクトに取り組んでいます。「つくる責任とつかう責任」を念頭に「産業と技術革新の基盤をつくる」ことや「住み続けられるまちづくり」「気候変動への具体的な対策」すべての人への健康と福祉」など建築学研究科が果たせる役割がたくさんあります。



情報学研究科

持続可能な社会を構築するためイノベーションを起こす研究者・技術者を育成

情報学の進展は、持続可能な社会の実現に向けて大きな役割を果たすと考えており、デジタル技術の活用による「産業の発展・効率化」「健康・福祉」「教育格差」などのさまざまな社会課題の解決が可能となり、イノベーションを起こす人材の養成を通じてSDGsの達成に貢献します。



薬学研究科

人の健康保持・改善に関係する幅広い分野のSDGs達成に貢献します

薬学研究科では、病気の原因解明、医薬品の開発と適正使用、機能性食品の開発、環境衛生と資源再利用など人の健康保持・改善に関連する分野に関する教育研究に取組み、これらに関連するSDGsの推進に貢献できる人材を養成しています。



総合文化研究科

分野横断型研究と知的創造によりSDGsの実装を支援します

言語、文学、芸術、文化、歴史、社会、心理など、人間の営みに関する分野横断的研究により、SDGs達成のためのパラダイムを創出します。また知識、データ、解決策の提案などで現在および将来にSDGsを実行する人材の養成をめざします。



農学研究科

農学研究により、食料・環境・生命・健康・エネルギーの分野の発展に貢献

農林水産業に関連した食料生産技術開発、ユーグレナによるジェット燃料生産、農業・アグリビジネスの活性化、陸域・水域の環境保全、健康を支える栄養教育など、SDGsに直結したさまざまな研究を推進しています。



医学研究科

最先端の医学研究と教育を通じて、全ての人が平等に健康な世界の実現を

医学研究科では、世界をリードする医学研究者の育成と探究心に溢れた臨床医の養成を通じて、全ての人が平等に病気の苦しみから開放され、疾病による差別や不利益のない世界の実現をめざします。



生物理工学研究科

生物・生体の優れた機能と仕組みを解明し、人類社会の持続的発展に貢献します

農作物が良く育ち病気が出にくい発病抑止土壌の開発、廃水や廃棄物を浄化しながら発電する微生物電池の開発、生命・生体機能の数理解析とその応用、医療機器・人工臓器の開発など多様な分野で研究を展開しています。



システム工学研究科

持続可能な社会を構築するための技術開発と新産業を創出するイノベーション人材の育成

クリーン技術や環境に配慮した技術開発のみならず、その導入プロセスの効率化、導入後のインパクト評価などを通して、持続可能な社会の構築に貢献します。加えて、グローバルな新産業を創出できる人材育成のため、デザイン思考教育を実践します。



産業理工学研究科

地球環境に調和する未来技術に向け「ハードサイエンスとソフトサイエンスの融合」がキーワード

多様なエネルギーアクセスを可能にする高性能電池、強靱なインフラ構築をめざした次世代光ファイバー通信、心理的な行動への影響を考慮した持続可能な都市計画、森林の持つ公益的機能・多面的価値の研究などに取り組んでいます。



実学社会起業イノベーション学位プログラム

学際的な総合知を生かしたスタートアップでSDGsの課題解決をめざします

学位プログラムでは、既存の学問領域に限定されない学際的なアントレプレナーシップを涵養し、高い倫理性をもって起業やイノベーション創生に従事することで、地域社会や国内外のイノベーション・エコシステムの持続的発展に貢献します。



大学院研究科のアドミッション・ポリシー	入学者受入れの方針
----------------------------	------------------

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げてきました。社会に貢献する実学の追究と人格の育成を基盤としたこの「建学の精神」と「教育の目的」は、知識基盤社会において、いっそう必要とされるものです。本学が目指すものは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を追及するだけではなく、自分自身が人や社会に貢献でき

大学院（博士後期課程・博士課程）	大学院（博士前期課程・修士課程）
アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）	アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）
<p>本課程では、専門領域の独自性・独創的な研究を遂行するために必要な知識・技能を中核となる基礎学力と位置づけます。本課程では、求める人物像を定めて、この基礎学力をはじめ、課題発見及び課題解決を行うために必要な資質・能力や、主体的に社会に新たな価値を創造しようとする強い意欲等を、多様な方式により確認し、一定の水準を満たす学生を受け入れます。</p> <p>これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。</p>	<p>本課程では、専門領域の研究を遂行するために必要な知識・技能を中核となる基礎学力と位置づけます。本課程では、求める人物像を定めて、この基礎学力をはじめ、課題発見及び課題解決を行うために必要な資質・能力や、主体的に社会に価値を創出しようとする意欲等を、多様な方式により確認し、一定の水準を満たす学生を受け入れます。</p> <p>これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。</p>

法学研究科 法律学専攻 > 博士前期課程 ／ 博士後期課程	<p>……… 11</p>
---	---------------

博士前期課程
法学研究科の教育目的は、近畿大学建学の精神に則り、法学及び政治学の分野において、その根底に横たわる重要問題や最先端の内容を教授・研究し、学生に修士(法学)にふさわしい幅広い基盤的な専門知識・考え方を修得させるとともに、専攻する各研究分野における応用力を身につけさせ、国際社会、国家または地域社会の発展に向けて、実際に指導的な役割を果たし得る多種多様な専門家を養成することにあります。法学研究科では、教育目的を実現するために、以下のような項目を満たす入学者を求めています。
1.現代社会における諸問題を解決するため、法学・政治学の観点からさらに研究を深めようとする人。
2.法学・政治学に関連する資格を取得し、それを通じて有意義な社会活動に取り組みようとする人。
3.社会人としての活動にその研究において培った能力を生かそうとする人。上記に挙げた人材を広く受け入れるため、学内推薦入学選考(7月)、学内入学選考(9月、2月)、一般入学選考(9月、2月)及び社会人入学選考(9月、2月)を実施し、入学者各自の適性及び経験に応じた入学選考を選択できるようにしています。各選考では、筆記試験・口頭試問等を実施し、これらの結果を総合的に判断しています。
博士後期課程
法学研究科の教育目的は、近畿大学建学の精神に則り、法学及び政治学の分野において、その根底に横たわる重要問題や最先端の内容を教授・研究し、学生に博士(法学)にふさわしい幅広い基盤的な専門知識・考え方を修得させるとともに、専攻する各研究分野における応用力を身につけさせ、国際社会、国家または地域社会の発展に向けて、実際に指導的な役割を果たし得る多種多様な専門家を養成することにあります。法学研究科では、教育目的を実現するために、以下のような項目を満たす入学者を求めています。
1.法学・政治学の各専攻分野において自立した研究者として独創的な研究をお行おうと意欲する人。
2.国内・国外の多様な方面で、法学・政治学に関する高度な専門性が求められる分野で活躍しようと思欲する人。
3.法学・政治学の専門性を踏まえて、高度に複雑な現代社会における問題を発見し、その解決案を提示して、その成果を社会人としての活動に活かそうとする人。上記に挙げた人材を広く受け入れるため、一般入学選考(2月)及び社会人入学選考(2月)を実施し、入学者各自の適性及び経験に応じた入学選考を選択できるようにしています。各選考では、筆記試験・口頭試問等を実施し、これらの結果を総合的に判断しています。

商学研究科 商学専攻 > 博士前期課程 ／ 博士後期課程	<p>……… 13</p>
--	---------------

博士前期課程
商学研究科は、近畿大学の建学の精神と教育の目的に基づいて、商学、経営学、会計学、ITビジネス、キャリア・マネジメント学、スポーツマネジメントの6つの分野のうち、いずれかの分野に軸足を置いて高度な専門知識を修得し、実務界・学界等で活躍・貢献できる人材を育成することを目的としています。下に示すように、これら6つの分野に関心を持ち、高度な専門知識の修得に意欲を持つ人を積極的に受け入れています。
1.本研究科の6つの分野のうち、専攻しようとする分野に強い興味・関心と基礎知識を持つ人。
2.高度な専門知識の修得に意欲を持つ人。
3.高度な専門知識を有するスペシャリストとして実務界で活躍することを希望する人。
4.専攻しようとする分野の研究活動を深化させ、博士後期課程に進学し学業で活躍することを希望する人。上記のポリシーを実現するために、国内外から広く人材を受け入れることを想定して、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。各選考・入学試験では、外国語・専門科目の成績(学力試験成績、学部成績)に加えて口頭試問を課します。口頭試問では、研究計画に基づいて修士論文の内容の確認などを行います。これによって、基礎学力、語学力、国際的な視野と高い倫理観、商学専攻関連の高度な専門知識、社会に貢献する意欲等を測り、総合的な評価を通じて選抜を行います。
博士後期課程
商学研究科は、近畿大学の建学の精神と教育の目的に基づいて、商学、経営学、会計学、ITビジネス、キャリア・マネジメント学、スポーツマネジメントの6つの分野のうち、いずれかの分野を専攻し、将来、研究者になることを目指し、卓越した専門知識と独自性・独創性に富んだ豊かな学識の修得に意欲を持つ人を受け入れています。
1.専攻しようとする分野に強い興味・関心と高度な専門知識を持つ人。
2.卓越した研究能力の修得に意欲を持つ人。
3.外国語に関する読解力等の十分な語学力を有する人。上記のポリシーを実現するために、国内外から広く人材を受け入れることを想定して、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。一般入学選考では外国語の成績に加えて口頭試問、社会人入学選考では口頭試問を課します。口頭試問では、研究計画に基づいて博士前期課程での研究実績やキャリアプランなどの確認を行います。これによって、基礎学力、語学力、国際的な視野と高い倫理観、商学専攻関連の高度な専門知識、社会に貢献する意欲等を測り、総合的な評価を通じて選抜を行います。

経済学研究科 経済学専攻 > 博士前期課程 ／ 博士後期課程	<p>……… 15</p>
--	---------------

本課程では、以下のような学生を求めます。
博士前期課程
1.専門領域の研究を遂行するために必要な知識・技能を身につけている人。
2.課題発見および課題解決を行うために必要な資質・能力を身につけている人。
3.主体的に社会に価値を創出しようとする意欲を持つ人。
4.現実の経済・社会が直面する諸問題を具体的に解決したいという強い意欲を持つ人。上記のポリシーを実現するために、「学内入学選考」「一般入学選考」「学内推薦入学選考」「社会人入学選考」を通じて学生の資質を確認します。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。
博士後期課程
本課程では、以下のような学生を求めます。
1.専門領域の独創的な研究を遂行するために必要な知識・技能を身につけている人。
2.独創的に課題発見および課題解決を行うために必要な資質・能力を身につけている人。
3.主体的に社会に新たな価値を創出しようとする意欲を持つ人。
4.経済学の各分野において、自立した研究者として独創的な研究を行う意欲を持つ人、または高度な専門知識を要求される職業人を目指す人。上記のポリシーを実現するために、「一般入学選考」の「専門科目(筆記)」と外国語の成績及び口頭試問の総合的な評価によって選抜を行います。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

総合理工学研究科 理学専攻 ／ 物質系工学専攻 ／ メカニクス系工学専攻 ／ エレクトロニクス系工学専攻 ／ 環境系工学専攻 ／ 東大阪モノづくり専攻	<p>></p> <p>博士前期課程</p> <p>博士後期課程</p>	<p>エネルギー理工学専攻 > 修士課程</p>	<p>……… 17</p>
--	---	--	---------------

博士前期課程
大学院総合理工学研究科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、先端的な科学研究や技術開発を通じて持続可能な社会の発展に寄与する研究者・高度専門技術者の育成を目的としています。このために、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、以下に示す意欲と能力を備えた学生を広く受け入れます。
1.自然科学全般及び志望する専門領域において、学士課程修了相当の基礎学力と専門知識を有している人。
2.専門文献の読解や国際的な情報収集を行うために必要となる、学士課程修了レベルの英語力を備えている人。
3.自らの研究テーマや計画について、文書や口頭で適切に説明し、他者と意思疎通を図るための基礎的なコミュニケーション能力を有している人。
4.専門領域の課題解決に対し、主体性をもつ

るかを考え、実践していくことです。そのため、学力の3要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働する態度」を身につけ、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格への成長を促進することを、近畿大学の教育方針とします。また大学を卒業した後も、生涯にわたって学び、社会を支える高い志をもつ学生を社会に送り出すことが、これからの時代に本学が目指す社会的使命です。

て積極的に取り組み、多様な人々と協働して学ぶ姿勢をもつ人。
5.科学技術者としての高い倫理性と責任感をもち、研究成果を社会に還元することで人類社会の発展に貢献したいという強い意志をもつ人。
6.研究・製品開発における創意工夫の精神をもち、社会のニーズや技術革新に柔軟に対応しようとする人。
上に挙げられた人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるために、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。各選考では、TOEIC®やTOEFL®など外部試験を含む英語の学力評価、志望する専攻の基礎並びに専門科目の成績(学力試験成績、学部成績の一部または複数の成績)に加えて、志望する専修科目などに関する口頭試問を課すことによって、博士前期課程志願者における基礎学力、語学力及び国際的な視野と高い倫理観をもつ高度専門技術者・研究者としての意欲などを測り、総合的な評価によって選抜を行います。また、東大阪モノづくり専攻では、書類選考による第1次選考と、実技試験及び口頭試問・口述試験による第2次選考の2段階選考を行います。

博士後期課程
大学院総合理工学研究科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、先端的な科学研究や技術開発を通じて持続可能な社会の発展に寄与する研究者・高度専門技術者の育成を目的としています。このために、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、以下に示す高い意欲と能力を備えた学生を広く受け入れます。
1.自然科学全般及び志望する専門領域において、博士前期(修士)課程修了相当の高度な専門知識と、自ら研究を完遂できる基礎的な研究能力を有している人。
2.専門分野の英語文献を深く理解し、国際的な研究動向を的確に把握するための語学力を備えている人。
3.既存の知見にとらわれず、強い好奇心のもと未知の課題を発見・設定し、長期的な視点で研究計画を立案・遂行する意欲がある人。
4.専門領域を深化させるだけでなく、多様な人々と協働して、関連分野や学際的な領域からも積極的に知見を取り入れようとする柔軟な視野をもつ人。
5.科学技術者としての倫理を遵守し、社会的責任感を備え、研究成果を論文発表や知的財産の創出を通じて社会に還元し、持続可能な未来の発展をリードする志をもつ人。
上に挙げられた人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるために、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。各選考では、修士論文、研究(経過)報告書、研究計画書などに加えて、志望する専修科目やこれまでに実施した研究に関する口頭試問を課すことによって、博士後期課程志願者における高い基礎学力と研究力、語学力及び国際的な視野と高い倫理観をもつ先進的な高度専門技術者・研究者としての意欲などを測り、総合的な評価によって選抜を行います。

理学専攻

博士前期課程

理学専攻では、自然を解明することを目標とし、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーで示した教育方針に基づいて、数理解析、物理学、機能性分子化学、生物・環境化学の各分野に分かれて先端的な研究活動を行うとともに、各分野にまたがる複合的な研究も行っています。これらの研究に携わる研究者による積極的かつ周到な教育・指導により、先端的な科学研究者、高等教育者、技術者を育成することを目指しています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。
1.未知のことに興味をもち、筋道を立てて解明する意欲をもつ人。
2.自然科学全般及び専門領域における研究のための基礎学力を有する人。
3.新たに得た知見を広く、役立てる意欲をもち、努力する人。さらに理学専攻に入学するまでに、各分野で行われている先端的な研究を学修するために必要な語学力(日本語及び英語による読解力、表現力、コミュニケーション能力)と数学・物理学・化学・生物学に対する基礎的理解力が修得できていることが望めます。

博士後期課程

理学専攻では、自然を解明することを目標とし、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーで示した教育方針に基づいて、数理解析、物理学、機能性分子化学、生物・環境化学の各分野に分かれて先端的な研究活動を行うとともに、各分野にまたがる複合的な研究も行っています。これらの研究に携わる研究者による積極的かつ周到な教育・指導により、先端的な科学研究者、高等教育者、技術者を育成することを目指しています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。

1.自然科学における基礎的な概念・原理・法則を理解し、新たな発見に意欲をもつ人。
2.自然科学に関する研究の専門的課題を自主的に解決し、論文の形(修士論文相当)で表現する能力を修得している人。
3.博士後期課程で学んだ知識や経験をともに、将来的に教育・研究分野において社会の発展に貢献する意思をもつ人。さらに、各分野で行われている最先端研究を学修するために必要な語学力(日本語及び英語による読解力、表現力、コミュニケーション能力)と数学・物理学・化学・生物学に対する高い基礎的理解力が修得できていることが望めます。

物質系工学専攻

博士前期課程

地球温暖化など、現代社会が抱える問題の解決は、明るい次世代社会を築くために必要不可欠です。物質系工学専攻では、これらの問題にかかわる化学現象の解明や新物質の創出に関する基礎研究、高等教育、産業応用を担う人材を育成することを目指しています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。選考には、物理学・無機化学・有機化学等、多分野の教員による口頭試問を取り入れています。

1.自然科学全般において修士としてふさわしい基礎学力を有し、その基礎学力をさらに培う意欲をもつ人。
2.修養した基礎学力をもとに各自の専門領域を深耕する意欲をもつ人。
3.積極性、主体性、倫理観に対する意識を高め、語学力やコミュニケーション能力を磨き、将来は国際的に活躍する技術者・研究者として人類社会の発展に貢献する意志をもつ人。

博士後期課程

地球温暖化など、現代社会が抱える問題の解決は、明るい次世代社会を築くために必要不可欠です。物質系工学専攻では、これらの問題にかかわる化学現象の解明や新物質の創出に関する基礎研究、高等教育、産業応用を担う人材を育成することを目指しています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。選考には、物理化学・無機化学・有機化学など、多分野の教員による口頭試問を取り入れています。

1.自然科学全般において修士としてふさわしい学識をもち、かつ各自の専門分野における課題を解決するための専門知識と実行力をもつ人。
2.各自の専門分野を深耕することに加え、専門以外の分野からも積極的に知見を取り入れることで自らの専門領域の新たな展開をはかり、ひいては新領域を切り拓く意欲をもつ人。
3.博士前期課程で培った積極性、主体性、倫理観、語学力、コミュニケーション能力にさらに磨きをかけ、将来は国際的な技術者・研究者の中であってリーダーシップを発揮し、人類社会の発展のため貢献する意志をもつ人。

メカニクス系工学専攻

博士前期課程

メカニクス系工学専攻では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、機械工学の専門知識を実社会に応用し幅広く国際社会で活躍でき、さらに次世代社会の高度発展を支える機械工学に関する基盤技術を設計・開発できる研究者・高度専門技術者の育成を目的としています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。

1.機械工学の学士の専門知識を修得した人。
2.与えられた研究テーマに取り組む意欲があり、前期課程修了までの研究計画を立案し、これを文書及び口頭で説明できる人。
3.学士の英語力をもち、産学官の中核的人物としてのグローバルな視点をもちたい人。

博士後期課程

メカニクス系工学専攻では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、機械工学の専門知識を実社会に応用し幅広く国際社会で活躍でき、さらに次世代社会の高度発展を支える機械工学に関する基盤技術を開発できる研究者・高度専門技術者の育成を目的としています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。

1.機械工学の修士の専門知識と研究能力を修得した人。
2.自ら問題を発見・解決して発表する意欲があり、学会で口頭発表でき、後期課程修了までの研究計画を立案し、これを文書及び口頭で説明できる人。
3.英語論文を読解でき、産学官の中核の研究者としてのグローバルな視点をもちたい人。

エレクトロニクス系工学専攻

博士前期課程

エレクトロニクス系工学専攻では、近畿大学の建学の精神に基づき、電気電子分野、通信分野、情報工学分野における研究者・技術者として幅広い見識と健全な倫理観をもち、持続的に発展可能な社会基盤と高度情報通信社会を支える人材の育成を目的としています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。学士のレベルに相当する理工系の素養と英語力を身につけており、豊かな創造力と論理的思考力を備え、高度な専門知識を学ぶ意欲と、研究開発に取り組むことへの強い興味と情熱をもち、計測・情報システム、材料・デバイスの2分野において、専門技術者、研究者、教育者を目指す学生を求めています。エレクトロニクス系工学専攻では入試制度ごとにアドミッションポリシーを設けており、学内選考では項目 1.2.を、一般入学選考と社会人入学選考では項目 2.3.をそれぞれ重視します。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。

1.主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢／エレクトロニクス系工学専攻の何れかの分野に強い関心があり、その専門知識を深く学ぶ意欲がある人。
2.思考力・判断力・表現力などの能力／自らの問題を解決するための豊かな創造力と論理的思考力を備え、さらに深い洞察力を獲得する意欲がある人。・学修を通して得られた知識、知見を高い倫理性をもって社会に還元できることができる人。
3.知識・技能／エレクトロニクス系工学専攻の何れかの分野で学ぶために必要となる、学士のレベルにふさわしい理工系の知識と基礎学力をもつ人。・学士のレベルにふさわしい英語力を身につけている人。

博士後期課程

エレクトロニクス系工学専攻では、近畿大学の建学の精神に基づき、電気電子分野、通信分野、情報工学分野における研究者・技術者として幅広い見識と健全な倫理観をもち、持続的に発展可能な社会基盤と高度情報通信社会を支える人材の育成を目的としています。このために、修士のレベルに相当する理工系の素養と英語力を身につけており、豊かな創造力と論理的思考力を備え、高度な専門知識を学ぶ意欲と、研究開発に取り組むことへの強い興味と情熱をもち、計測・情報システム、材料・デバイスの2分野において、専門技術者、研究者、教育者を目指す学生を求めています。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。

1.主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢／博士前期課程より継続して研究を進める好奇心と意欲がある人。・専門領域において学ぶ知見を社会に知らしめる意志をもつ人。
2.思考力・判断力／表現力などの能力・研究課題を解決するための論理的な思考力を強化し、深い洞察力を獲得する意欲がある人。・研究の社会的意義について正しい認識をもち、研究者・技術者倫理を遵守できる人。
3.知識・技能／博士前期課程修了レベルにふさわしい理工系の知識と基礎学力を持つ人。・修士のレベルにふさわしい英語力を身につけている人。

環境系工学専攻

博士前期課程

環境系工学専攻では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、地球環境保全や社会基盤形成に関係する環境系工学分野(地球・社会環境工学分野、都市・居住環境計画分野、構造・材料・地盤工学分野)の専門知識の修得と、高度な知識・分析力・総合力をもった技術者・研究者の育成を目的としています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究科の項目を参照してください。地球環境保全や社会基盤形成に関係する学問や研究に対する意欲と実行力に満ち、研究者倫理・技術者倫理を有する入学者を求めます。

1.環境系工学に関する基礎知識を有する人。
2.環境系工学に関する研究テーマに取り組む意欲があり、専門的課題に対して研究計画を立てられる人。
3.環境系工学における技術者・研究者として、活躍したい人。

博士後期課程 環境系工学専攻では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、地球環境保全や社会基盤形成に関係する環境系工学分野（地球・社会環境工学分野、都市・居住環境計画分野、構造・材料・地盤工学分野）の専門知識の修得と、高度な知識・分析力・総合力をもった技術者・研究者の育成を目的としています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究所の項目を参照してください。地球環境保全や社会基盤形成に関係する学問や研究に対する意欲と実行力に満ち、研究者倫理・技術者倫理を有する入学者を求めます。

1.環境系工学に関する修士としてふさわしい専門知識と研究能力を有する人。2.環境系工学に関する研究テーマに自ら取り組み、問題の発見・解決に意欲があり、研究計画を立てられる人。3.グローバルな視点を持ち、国内外で環境系工学に関する卓越した研究者を目指す人。

エネルギー理工学専攻

持続可能な社会、健康長寿社会の構築にむけ、エネルギー技術の革新と理論の探求への社会要請が高まっています。本専攻では、次世代インフラエネルギー理工学、エネルギーマテリアル理工学、ライフデバイスエネルギー理工学「エネルギー3分野」それぞれにおける専門教育を実施し、各種エネルギー技術の開発や、エネルギーに関わる基礎理論の追求に寄与する基礎研究、高等教育、産業応用を担う人材を育成することを目指しています。選考では、3分野にわたる複数教員による口頭試問を取り入れています。本専攻が受け入れを望むのは、以下のような人です。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究所の項目を参照してください。

修士課程

1.当専攻の「エネルギー3分野」のいずれかに強い関心を持ち、専門知識を修得する意欲がある人。2.関心のある分野の専門知識を修得していく上で必要となる、学士としてふさわしい基礎学力をもつ人。3.学士の学位を取得する際に修得した課題解決能力・情報発信能力・コミュニケーション能力を向上させる意欲をもつ人。4.学士の学位を取得する際に修得した英語読解力・英語コミュニケーション能力を向上させ、調査・研究の遂行や成果発表に活用する意欲をもつ人。

東大阪モノづくり専攻

博士前期課程

東大阪モノづくり専攻では、最先端の理論と実務との架け橋の役割を果たそうとする意欲をもち、理工系全般の素養を身につけ、創意工夫の精神をもち、モノづくり産業の発展に深い関心をもつ意思の高い人材の育成を目指しています。学則の理念に基づき、企業での研究開発と大学院での高度な教育を行うことにより、多様な価値観を身につけ、幅広い知識と総合力を備えた「新しい価値を創造できる研究者・技術者の養成」を目的としています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究所の項目を参照してください。

1.未知のことに興味をもち、筋道を立てて解明する意欲をもつ人。2.自然科学全般及び専門領域における研究のための基礎学力を有する人。3.新たに得た知見を広め役立てる意欲をもち努力する人。入学試験では上記の人材を多面的な評価尺度で選抜するために、1.に対しては、一次試験として、定められたテーマに対する小論文を課す、2.に対しては、二次試験として、限られた道具と材料を用いて、テーマに沿ったモノを複製し、プレゼンテーションを課す、3.については、二次試験として、口頭試問を課す、という二段階選抜によって受け入れ、一次試験及び二次試験の結果を統合した入学者選抜を実施します。

博士後期課程

東大阪モノづくり専攻では、最先端の理論と実務との架け橋の役割を果たそうとする意欲をもち、理工系全般の素養を身につけ、創意工夫の精神をもち、モノづくり産業の発展に深い関心をもつ意思の高い人材の育成を目指しています。学則の理念に基づき、企業での研究開発と大学院での高度な教育を行うことにより、多様な価値観を身につけ、幅広い知識と総合力を備えた「新しい価値を創造できる研究者・技術者の養成」を目的としています。このために、以下に示すような学生を受け入れます。なお、具体的な入学者選抜については総合理工学研究所の項目を参照してください。

1.未知のことに興味をもち、筋道を立てて解明し、それを工学的応用に発展させる意欲をもつ人。2.自然科学全般及び専門領域における研究者としての応用学力を有する人。3.新たに得た知見を広め役立て、グローバルに展開する意欲をもち努力する人。入学試験では上記の人材を多面的な評価尺度で選抜するために、1.に対しては、一次試験として、定められたテーマに対する小論文を課す、2.に対しては、二次試験として、限られた道具と材料を用いて、テーマに沿ったモノを複製し、プレゼンテーションを課す、3.については、二次試験として、口頭試問を課す、という二段階選抜によって受け入れ、一次試験及び二次試験の結果を統合した入学者選抜を実施します。

建築学研究科 建築工学専攻／建築デザイン専攻 > 修士課程

建築学研究科は、建築工学専攻および建築デザイン専攻において、建築を取り巻く多様かつ高度な課題に対応できる専門的知識と創造的能力を備えた人材の養成を目的とし、以下のような学生を国内外から広く受け入れます。

求める学生像(修士課程)

1.建築工学分野(環境・材料工学、建築構造工学、都市・建築計画学)または建築デザイン分野およびその関連領域において、学士課程修了者として相応しい基礎的かつ専門的知識を有する人。2.高度な専門知識や研究内容を理解し、発信するために必要な基本的な言語能力(日本語および外国語)を有する人。3.学問・研究に対する強い意欲を持ち、建築学または建築デザイン分野における専門的課題に対して、研究計画あるいは設計・制作計画を立案し、主体的に遂行できる人。4.研究者倫理・技術者倫理を理解し、領域横断的な思考力と総合的・創造的な判断力、ならびに適切な表現力をもって、国際社会および地域社会に貢献する意欲を有する人。5.建築学または建築デザイン分野において修得した知識と技能を活かし、産学官における技術者・研究者、あるいは高度専門職業人として活躍することを目指す人。入学者選抜方法:上記の人物像を備えた人材を受け入れるため、建築学研究科では、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、ならびに必要に応じて社会人入学選考(建築工学専攻のみ)を実施します。各選考においては、外国語および専門科目の成績確認または筆記試験に加え、口頭試問を行い、これらの結果を総合的に評価して入学者を選抜します。外国語では、求める学生像2に示す言語能力を確認し、専門科目ではアドミッション・ポリシー1および3に示す基礎的・専門的知識および課題発見能力を評価します。口頭試問では、研究計画、ならびに修了後の進路についての質疑を通して、学修・研究への意欲、倫理観、将来像など、アドミッション・ポリシー3〜5に関わる資質と意思を総合的に確認します。

建築工学専攻

建築工学専攻では、次のような学生を受け入れます。【修士課程】1.建築工学の各分野(環境・材料工学、建築構造工学、都市・建築計画学)の学士に相応しい専門知識を有する人。2.高度な専門知識を理解するための基本的な言語能力を有する人。3.学問・研究に対する積極的な意欲を有し、建築工学分野における専門的課題に対して研究計画を立て、研究を実行できる人。4.研究者倫理・技術者倫理を有し、産学官における技術者・研究者として活躍したい人。上記に挙げられた人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるため、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。各選考では、外国語と専門科目の成績確認あるいは筆記試験に加え、口頭試問を実施し、これらの結果を総合的に評価した入学者選考を行います。外国語では、2の能力を、専門科目では1と3の能力を確認します。口頭試問では、研究計画および卒業後の進路についての質疑を行い3および4に関わる意欲と意思を確認します。

建築デザイン専攻

建築デザイン専攻では、次のような学生を受け入れます。【修士課程】1.建築デザインと関連領域分野に関する学士に相応しい専門知識を有する人。2.高度な専門知識を理解するための基本的な言語能力を有する人。3.領域横断的な思考力を持ち、技術者倫理を有し、総合的かつ創造的な判断力と表現力をもって、国際社会や地域社会に貢献する意欲を持つ人。4.建築デザイン分野における知識と技能を活かして、新たな建築や都市を構想する能力を発揮できる人。上記に挙げられた人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるため、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考を実施します。各選考では、外国語と専門科目の成績確認あるいは筆記試験に加え、口頭試問を実施し、これらの結果を総合的に評価した入学者選考を行います。外国語では、2の能力を、専門科目では1と4の能力を確認します。口頭試問では、研究計画および卒業後の進路についての質疑を行い3にある意欲を確認します。

情報学研究科 情報学専攻 > 修士課程

情報学専攻

情報学研究科情報学専攻は、近畿大学建学の精神に則り、教育目的を実現するため、以下の項目を満たす学生を求めています。

1.学士のレベルに相当する理工系の素養と英語力を身につけている人。2.情報学に関する高度な専門知識を深く学ぶ意欲、研究開発に取り組むことへの強い興味や情熱をもつ人。3.自らの課題を解決するための豊かな想像力、深い洞察力と論理的な思考力を獲得したい人。4.高い倫理性を持った専門技術者、研究者として学修を通して得られた知識、知見を社会に還元しようとする人。

薬学研究科 薬学専攻 > 博士課程 薬科学専攻 > 博士前期課程／博士後期課程

薬学研究科

薬学研究科では、建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に即し、薬学・生命科学・医療の分野で社会的課題の解決と科学の進展に貢献する高度専門職業人・研究者を育成することを目指しています。本研究所の3課程(博士前期・博士後期・薬学博士課程)においては、それぞれの課程が求める専門性と教育目標に応じて、次のような資質・能力・意欲を備えた学生を受け入れます。

(1)知識・技能: 1.薬学に関する基礎的または高度な知識と技能を有し、各課程の教育内容に対応できる学修準備性がある。(2)思考・判断・表現: 1.課題に対して論理的に思考・判断し、成果を適切に表現・伝達する力を有している。(3)主体性・意欲・態度: 1.研究・学修に対する強い意欲をもち、倫理観と国際的視野をもって学びに臨む姿勢がある。入学試験との対応: 選抜にあたっては、筆記試験(専門・英語)・小論文・面接・出願書類・研究計画書等を通じて、これらの要素を多面的に評価し、ディプロマ・ポリシーとの整合性を確認した上で受け入れの可否を判断します。

薬学専攻

博士課程

薬学専攻博士課程では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に則し、高度医療の実践と医療薬学の発展を通じて人類社会の福祉と持続的発展に貢献しうる人材の育成を目的としています。本課程では、薬剤師としての実務経験や前課程で習得した専門的知識・研究能力をもとに、医療現場に根ざした課題を科学的に解決しうる研究者または高度専門職業薬剤師として、臨床・研究・行政・教育など幅広い分野で活躍する意欲と能力を備えた学生を受け入れます。そのため、薬学専攻博士課程の教育課程を履修し、博士論文の作成を通じてディプロマ・ポリシーに定める教育目標を達成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

(1)知識・技能: 1.医療薬学及び関連分野における基礎的かつ専門的知識・技術を有し、博士課程レベルの研究を遂行する素養を備えている。(2)思考・判断・表現: 1.臨床や研究の場における課題を的確に捉え、論理的に分析・考察し、研究計画として構築・表現する能力を有している。(3)主体性・意欲・態度: 1.高い倫理観と責任感をもち、主体的に研究に取り組む姿勢を有している。2.多様な文化や価値観を尊重し、国際的視野をもって他者と協働しながら研究・実践を遂行できる態度を備えている。3.医療・薬学の課題解決や学術的発展を通じて社会に貢献しようとする強い目的意識を有している。入学試験との対応: 入学者選抜においては、上記の資質や能力について、提出された研究計画書・志望理由書・業績書などの出願書類・専門分野に関する学力試験・口頭試問・プレゼンテーション等を通じて、多面的かつ総合的に評価します。特に、博士課程の学修に不可欠な医療薬学的基礎知識と研究素養については、すべての入試制度において確認します。

薬科学専攻

博士前期課程

薬科学専攻博士前期課程では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に即し、生命科学の進歩に貢献し、国際的に活躍できる人材の育成、及び人類社会の福祉と持続的発展への貢献を目指しています。そのため、本課程では、創薬科学及び生命薬学分野において多岐にわたる専門的能力を有し、グローバルな視点と豊かな創造力、そして健全な倫理観を備えた学生を受け入れます。本課程が提供するカリキュラムを履修するために必要な基礎的学力を有するとともに、以下に定める資質・能力・意欲を備えた学生を求めます。これらは、外国語(英語)・専門試験・面接・小論文・出願書類等により、多面的に評価します。なお、薬科学の学修に必要な基礎学力については、すべての入試制度において確認します。

(1)知識・技能: 1.薬学及び生命薬学の学修に必要な基礎的知識及び研究技能を有している。2.学士課程における学修・研究経験を通じて、より専門的な探究へ発展できる素養を備えている。(2)思考・判断・表現: 1.科学的課題を多角的に捉え、論理的に分析・考察し、適切に表現する力を有している。2.専門知識に基づき、自ら研究課題を構築する意欲がある。3.プレゼンテーションや議論を通じて、根拠に基づいた主張を発信できる。(3)主体性・意欲・態度: 1.倫理的態度を持ち、研究活動に積極的に取り組む主体性と、学術的誠実さを備えている。2.多様な文化や価値観を理解し、国際的視点から他者と協働できる態度を有している。3.医薬品・生命科学の発展と社会課題の解決に貢献しようとする明確な目的意識を有している。入学試験との対応:外国語(英語)・専門試験・面接・小論文・出願書類等により、上記の資質・能力・意欲を多面的かつ総合的に評価し、ディプロマ・ポリシーとの整合性を踏まえて受け入れの可否を判断します。

博士後期課程

薬科学専攻博士後期課程では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に則り、創薬科学及び生命薬学分野における高度な専門知識と技術を修得し、自立した研究活動を通じて科学的課題を解決し、生命科学の進歩に貢献できる人材の育成を目的としています。また、高い倫理観と国際的視野をもち、医薬品の研究開発・学術・行政・産業など幅広い分野で活躍できる資質を備えた人材の育成を目指します。本課程では、前課程で習得した専門的知識・技術・研究経験をもち、博士論文の作成を通じてディプロマ・ポリシーに定める教育目標を達成する意欲と能力を有する学生を受け入れます。具体的には、以下の資質・能力を備えた学生を求めています。

(1)知識・技能: 1.創薬科学及び生命薬学分野の専門知識・技術を基礎として、博士論文研究に必要な高度な専門性を有している。(2)思考・判断・表現: 1.科学的課題を的確に捉え、論理的に考察し、自らの研究成果を適切に表現・発信できる。(3)主体性・意欲・態度: 1.倫理観と研究者としての責任感をもち、創造性と主体性をもって研究に取り組む姿勢がある。2.多国際的視点をもち、多様な他者と協働しながら研究を遂行する意欲がある。入学試験との対応: 入学者選抜においては、上記の資質や能力について、提出された研究計画書・志望理由書、口頭試問及び専門分野に関する学力試験等により多面的に評価します。特に、博士後期課程の学修に不可欠な専門的基礎学力については、すべての入試制度において確認します。

総合文化研究科 日本文学専攻／英語英米文学専攻／文化・社会学専攻／心理学専攻 > 修士課程

総合文化研究科修士課程では、専門領域の研究を遂行するために必要な知識・技能を、修士課程における中核となる基礎学力と位置づけます。これに加えて、専門分野に対する強い関心と学修意欲を基盤とし、研究を通して人間・文化・社会の諸相を多角的かつ本質的に考察しようとする姿勢を重視します。本課程では、求める人物像を明確に定め、この基礎学力をはじめ、専門的知識・技能を発展的に活用して課題を発見し、論理的に分析し、解決へと導くための資質・能力、ならびに幅広い教養と柔軟な思考力をもって、主体的に社会や学術の発展に寄与し、新たな価値を創出しようとする意欲を、多様な方式により確認します。入学者選抜にあたっては、研究計画書の審査、外国語能力および専門分野に関する筆記試験、口頭試問等を通じて、志願者の学修意欲、研究への適性、論理的思考力および表現力を総合的に評価し、一定の水準を満たす学生を受け入れます。なお、これらの資質・能力および意欲の達成度については、別に定める大学院アセスメントプランに基づき評価を行います。

日本文学専攻

総合文化研究科日本文学専攻は、近畿大学の建学の精神である実学教育と人格の陶冶に則り、専門的な知識によって自ら新しい価値を生み出すことのできる柔軟な思考力と豊かな創造力を持った人材を育成するため、以下のような意欲と能力を持つ人を入学者として受け入れます。日本文学・日本語学・創作・批評などの学問分野の知識や技能の修得に加えて、それを活用して教育・文化に関わる仕事に携わりたいという意欲と能力を持つ人。日本文学・日本語学の学問分野に興味を持ち、その研究を通して文学や言語について考察し、かつ研究者としての基礎を身につけたいという意欲と能力を持つ人。創作・批評の分野に興味を持ち、それについて学ぶことを通じて、現代社会が直面する諸問題に対する問題意識を獲得したいという意欲と能力を持つ人。上記のポリシーを実現するため、日本文学専攻では出願資格を明確に定め、年間2回の入学試験を実施します。入学試験では、外国語の筆記試験、専門分野に関する筆記試験と口頭試問を行い(出願資格により異なる)、研究計画書の審査を加えて入学者選抜を行います。

英語英米文学専攻

総合文化研究科英語英米文学専攻は、近畿大学の建学の精神である実学教育と人格の陶冶に則り、ジャンルを超えた広い視野をもって、英語という言語の性質を探索し、英語圏文学作品の研究を目指す人を国内外から広く受け入れ、専門性と関連領域の学識を高めていきます。このような方針に基づき、以下のような学生を求めます。言語としての英語や英語圏の文学作品に強い関心があり、高度な英語力を持つ人。英語圏の文学作品について文学理論を援用して研究したい人。また、関連領域としての英語教育・応用言語学について学識を高めたい人。研究者、教員、及び、高度な言語の知識や文学の理論を駆使した職業に就くことを目指す人。上記のポリシーを実現するため、英語英米文学専攻では志願者による研究計画書の審査や語学・専門分野に関する試験などに加え、口頭試問を実施し、これらの結果を総合して合否判定を行います。

文化・社会学専攻

総合文化研究科文化・社会学専攻は、近畿大学の建学の精神である実学教育と人格の陶冶に則り、複雑化する現代社会を理論と実践からの確に理解し、あるいは歴史の解明を通じて、現代社会の課題に取り組む人材を育成するため、以下のような意欲と能力を持つ志願者を受け入れます。歴史・現代文化・社会・都市などの専門分野に興味を持ち、その研究を通して様々な人間の営みを根源的に考察し、多角的に理解しようとする人。専門分野に関する知識や技能の修得に加えて、諸科学を横断する柔軟で幅広い教養と豊かな創造力を持つ人。自分自身の持つ志を強く持ち、そのために必要な基礎学力を有する人。分化された職能にとどまらず、総合的な思考力、判断力をもって文化や知識の発信を行い、国際社会や地域社会で指導的役割を果たそうとする意欲を持つ人。上記のポリシーを実現するため、志願者による研究計画書の審査や語学・専門分野に関する試験などに加え、口頭試問を実施し、これらの結果を統合して合否判定を行います。

心理学専攻

総合文化研究科心理学専攻は、近畿大学の建学の精神である実学教育と人格の陶冶に則り、科学的な態度と確かな学識、論理的正当性に裏打ちされた、研究活動を行うだけでなく、人々のウェルビーイング及び人間の生の基盤である社会の改善・発展にとって必要な解決すべき問題を拾い上げ、その解決に貢献する人材の育成を目的としています。したがって、以下のような意欲と能力を持つ志願者を受け入れます。心理、臨床心理などの専門分野に興味を持ち、その研究を通して様々な人間の営みを根源的に考察し、多角的に理解しようとする人。専門分野に関する知識や技能の修得に加えて、諸科学を横断する柔軟かつ豊かな創造力と豊かな思考力、判断力をもって文化や知識の発信を行い、国際社会や地域社会で指導的役割を果たそうとする意欲を持つ人。上記のポリシーを達成するために、出願資格を明確に定め、年間2回の入学試験を実施します。入学試験では、外国語(英語)能力に関する筆記試験と、専門分野の基本的知識及び論理性や分析力を評価する筆記試験、そして心理学的関心、科学的思考力、研究活動や臨床活動に対する意欲等を評価するために、志願者による研究計画書の審査や口頭試問を実施し、これらを総合的に評価し、入学者を選抜します。

農学研究科 農業生産科学専攻／水産学専攻、応用生命科学専攻／環境管理学専攻／バイオサイエンス専攻 > 博士前期課程／博士後期課程

博士前期課程

農学研究科博士前期課程は、「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、自然科学から社会科学までを含む農学の幅広い領域において、実社会的課題解決に取り組む意欲と能力を有する人材を求めます。研究科では、国内外の多様な背景を持つ学生を受け入れ、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考などの多様な入学選抜を実施します。求める学生像は以下のとおりです。1.農学・生命科学・水産学・環境科学および学際領域に関する基礎的知識を有し、新たな専門知識と技能を探究する強い意欲を持つ人。2.英語を含む多言語での科学的読解・発信に意欲があり、国際的視野で研究を展開できる人。3.科学的思考力・課題発見力・問題解決力を活用して社会的課題、科学的課題に取り組もうとする人。4.国内外の学術・産業・地域社会でリーダースhipを発揮し、学問の発展と社会貢献に寄与する志を有する人。入学者選抜では、筆記試験や口頭試問などを通じて、学力、研究遂行能力、コミュニケーション能力などをルーブリックに基づいて総合的に評価します。

博士後期課程

農学研究科博士後期課程は、建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、農学・生命科学・水産学・環境科学および学際領域における未解明課題の発見と解決を主体的に推進し、国際的に研究成果を発信できる高度専門人材を求めます。研究科では、国内外の多様な背景を有する学生を受け入れ、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。求める学生像は以下のとおりです。1.博士前期課程(修士)またはそれに相当する教育を通じて基礎的研究能力を身につけ、自律的に研究課題を設定し探究する強い意欲と遂行能力を有する人。2.英語を含む多言語での学術コミュニケーションに意欲があり、国際誌論文や学会で研究成果を発信できる人。3.科学的思考力・批判的判断力により、社会的・学術的課題に対して新たな知見の創出に挑戦する人。4.国内外の学術・産業・地域社会でリーダースhipを発揮し、学術的な独創性・挑戦性をもって学問の発展と社会貢献に寄与する志を有する人。入学者選抜では、口頭試問を通じて、研究遂行能力、コミュニケーション能力、研究計画の妥当性などを、ルーブリックに基づいて総合的に評価します。

農業生産科学専攻

博士前期課程

農業生産科学専攻博士前期課程では、本学の建学精神である「実学教育」と「人格の陶冶」をふまえ、農学に係る自然科学から社会科学までの幅広い知識と技術を修得し、身につけた高度な能力を農社会が抱える様々な問題の解決に実践、応用できる人材の育成を目指しています。また、農業生産の現場における諸課題を解決する能力を有し、環境と健康に配慮した作物の生産と流通に関連する各分野で活躍できる創造性豊かな人材の育成を目指しています。これを実現するために、以下に挙げるような人物像を備えた入学者を国内外から広く受け入れることを目的とし、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。博士前期課程の選考・入学試験は、志願者の基礎学力やコミュニケーション能力について、学力試験(英語と専門科目)および口頭試問により行います。口頭試問に関しては、以下に挙げる4つの項目をもつ人材をルーブリック(取り組み姿勢、目的・背景の理解、研究遂行力、卒業研究結果に対する解釈力・考察力、卒業研究および修士論文発表のプレゼンテーション能力)で総合的に評価します。1.農業生産科学専攻博士前期課程の教育を理解し修得するのに必要な学力と学修・研究意欲を有する人。入学試験で優秀な成績を修めた人。2.農学研究を行う上で不可欠となる実験・調査・分析能力だけでなく、英語科学論文の読解力と理解力を有する人。3.本専攻分野の学問的発展と社会的貢献を果たすため、幅広い専門知識を尊重し、国際的視野をもって他者と協働しながら研究・実践を遂行できる態度を備えている。4.本専攻分野の教育・研究成果を国際的に発信するためのコミュニケーション能力を高め、役立てる能力のある人。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

博士後期課程

農業生産科学専攻博士後期課程では、本学の建学精神である「実学教育」と「人格の陶冶」をふまえ、農学に係る自然科学から社会科学までの幅広い知識と技術を修得し、身につけた高度な能力を実社会が抱える様々な問題の解決に実践、応用できる人材の育成を目指しています。また、農業生産の現場における諸課題を解決する高度な能力を有し、環境と健康に配慮した作物の生産と流通

に関連する各分野で活躍できる創造性豊かな人材の育成を目指しています。これを実現するために、以下に挙げるような能力を備えた入学者を国内外から広く受け入れることを目的とし、一般入学選考、社会人入学選考を実施いたします。博士後期課程の選考・入学試験は、口頭試問により行います。口頭試問に関しては、以下に挙げる4つの項目をもつ人材をルーブリック(取り組み姿勢、目的・背景の理解、研究遂行力、卒業研究結果に対する解釈力・考察力・卒業研究および修士論文発表のプレゼンテーション能力)で総合的に評価します。1.農業生産科学専攻の教育を理解し、技術者、研究者、指導者として自立するために必要な卓越した知識と技術を学修し研究を推進することができる人。入学試験で優秀な成績を修めた人。2.農学研究を行う上で不可欠となる英語科学論文の読解力と理解力に加えて、母国語のみならず英語でのコミュニケーション能力を修得できる人。3.本専攻分野の学問的發展と国内外における社会的貢献を果たすため、幅広い専門知識や技術、それらを活用して課題探求・解決能力、科学的思考能力、研究遂行能力の修得ができる人。4.本専攻分野の教育・研究成果を国際的に発信し、国内外で活躍できる能力のある人。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

水産学専攻

博士前期課程

水産学専攻博士前期課程では、自然と調和した持続的な水産業の発展のため、水域の食料生産や環境保全などの幅広い分野で世界の水産業を牽引できる人材の育成を目指しています。具体的には、以下に挙げるような人物像を備えた入学者を国内外から広く受け入れるため、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施いたします。博士前期課程への各選考・入学試験では、英語と専門科目の学力試験および口頭試問を行い、各試験が個別に評価されます。また、口頭試問を行い、研究への取り組み姿勢、目的・背景の理解、遂行能力や卒業論文の内容等について総合的に評価しています。1.水産科学に関する基礎的知見を有し、現在の水産業が抱える問題点に積極的に取り組む意志を有する人。2.水産学研究を行う上で不可欠となる英語科学論文の読解力と理解力を有する人。3.自然環境との共生を理解し、魚介類の生産から加工までの水産業全体を掌握する広い知識、応用力、実践力の修得を目指す人。4.グローバル化した産業と研究のニーズに対応するため、コミュニケーション能力と国際的発信力に意欲を有する人。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

博士後期課程

水産学専攻博士後期課程では、自然と調和した持続的な水産業の発展のため、水域の食料生産や環境保全などの幅広い分野で世界の水産業をリードできる卓越した人材の育成を目指しています。具体的には、以下に挙げるような人物像を備えた入学者を国内外から広く受け入れるため、一般入学選考、社会人入学選考を実施いたします。博士後期課程への入学には口頭試問を行い、研究への取り組み姿勢や熱意、目的・背景の理解と計画性、遂行能力や修士論文の内容等について総合的に評価しています。1.水産科学に関する基礎的知見を有し、現在の水産業が抱える問題点に対して技術者、研究者、指導者としての視点で解決方法を学修・研究する意志を有する人。2.水産学を行う上で不可欠となる英語科学論文の高度な読解力と理解力とともに、情報を効果的に利用できる能力を有する人。3.魚介類の生産から加工までの水産業全体を掌握する幅広い知識、自然環境との共生の理解、柔軟かつ卓越した応用力、実践力について各分野の専門家としてのスキルの修得を目指す人。4.グローバル化した産業と研究のニーズに対応するため、本専攻分野の教育・研究成果を国際的に英語で発信し、国内外で役立てるコミュニケーション能力の修得意欲を有する人。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

応用生命化学専攻

博士前期課程

応用生命化学専攻博士前期課程では、生命現象を化学的視点から理解することによって生命の特性を活用し、人類が直面する課題の解決に挑む人材の育成を目指して、以下の能力を有する入学者を国内外から広く受け入れます。入学選考では、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。各選考・入学試験においては、志願者の基礎学力やコミュニケーション能力について、学力試験(英語と専門科目)、口頭試問などを適宜実施し、総合的に評価します。また、口頭試問に関しては、以下に挙げる3つの項目をもつ人材をルーブリック(専攻分野に関連した研究の理解、コミュニケーション能力、研究意欲)で総合的に評価します。1.本専攻の教育と研究理念を理解し、修得するのに必要な基礎学力・語学力を有し、生命、資源、食料、環境に関する最先端の研究を生物と化学の融合領域で、応用に結びつける意欲を有する人。2.主体的に行動し、情報収集能力があり、問題解決に向けてチャレンジ精神のある人。3.修学・研究成果を社会に役立てるため、明確なキャリアプラン(人生設計)を持つことが推奨されます。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

博士後期課程

応用生命化学専攻博士後期課程では、生命現象を化学的視点から理解することによって生命の特性を活用し、人類が直面する課題の解決に挑む卓越した人材の育成を目指して、以下の能力を有する入学者を国内外から広く受け入れます。入学選考では、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。各選考・入学試験においては、志願者の基礎学力やコミュニケーション能力について、学力試験(英語と専門科目)、口頭試問などを適宜実施し、総合的に評価します。また、口頭試問に関しては、以下に挙げる4つの項目をもつ人材をルーブリック(専攻分野に関連した研究の理解、コミュニケーション能力、論理的思考力、研究意欲)で総合的に評価します。1.本専攻の教育と研究理念を理解し、修得するのに必要な学力・語学力を有し、生命、資源、食料、環境に関する最先端の研究を生物と化学の融合領域で行い、応用に結びつける意欲を有する人。2.論理的思考力および記述能力、口頭発表能力を有し、主体的に行動し、情報収集能力があり、問題解決に向けてチャレンジ精神のある人。3.修学・研究成果を社会に役立てるため、国際的に発信し相互理解を深め、当該研究分野で世界をリードする意欲を有する人。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

環境管理学専攻

博士前期課程

環境管理学専攻博士前期課程では、本学の建学精神である実学教育と人格の陶冶をふまえ、持続可能な農林水産業の展開と生物多様性の保全に必要な知識と技術を修得し、育まれた能力をもって、人類が直面する環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。以下に挙げたような人物像を備えた入学者を国内外から広く受け入れるため、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。すべての選考で口頭試問を行い、学内入学選考では学力試験(英語)、一般入学選考と社会人入学選考では学力選考(英語と専門科)適宜実施し、総合的に評価します。ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに学修目標として定めた資質・能力を修得するために必要な基礎学力と意欲を有しているか、ルーブリックによって評価を行います。1.環境管理学専攻の教育・研究分野と理念・目標を理解し、環境管理学を修得するのに必要な基礎学力と研究意欲を有する人。2.人類と自然の共生をめざし、開発と保護の調和をはかるための専門的な知識と技術、課題探求・解決能力、科学的思考能力の修得をめざす人。3.研究成果を国内外に発信できる語学力やコミュニケーション能力を修得し、環境分野を中心として社会で活躍する意欲を有する人。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

博士後期課程

環境管理学専攻博士後期課程では、本学の建学精神である実学教育と人格の陶冶をふまえ、持続可能な農林水産業の展開と生物多様性の保全に必要な知識と技術を修得し、育まれた高度な能力をもって、人類が直面する環境問題の解決に国際的視野をもって貢献できる人材を育成します。以下に挙げたような人物像を備えた入学者を国内外から広く受け入れるため、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。各選考・入学試験では口頭試問を行い、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに学修目標として定めた資質・能力を修得するために必要な基礎学力と意欲を有しているか、ルーブリックによって評価を行います。1.環境管理学専攻の教育・研究分野と理念・目標を理解し、環境管理学と理念・地球規模での環境問題の解決をめざす高い研究意欲を有する人。2.人類と自然の共生をめざし、開発と保護の調和をはかるための専門的な知識と技術、課題探求・解決能力、科学的思考能力、研究遂行能力の修得をめざす人。3.研究成果を世界に発信できる語学力やコミュニケーション能力を修得し、国際的に活躍する意欲を有する人。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

バイオサイエンス専攻

博士前期課程

バイオサイエンス専攻博士前期課程は、本学の建学精神である「実学教育」と「人格の陶冶」をふまえ、生物の多様な機能に着目した研究を通して、その原理を理解し、得られた成果を社会にフィードバックできる柔軟な思考力と創造力を持ち、人類が抱える食料・医療・創薬、エネルギーの諸問題を解決できる人材を育成します。これを実現するために、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施いたします。博士前期課程の各選考・入学試験においては、志願者の基礎学力やコミュニケーション能力について、学力試験(英語と専門科目)、口頭試問などにより総合的に評価します。また、口頭試問に関しては、以下の項目についてルーブリック(大学院における学修に対する意欲、研究目的・背景の理解、卒業研究結果の理解、専門知識)で総合的に評価しています。1.本専攻博士前期課程の教育・研究を理解、修得するのに必要な動物学、植物学、微生物学、化学に関する知識と語学力を身につけ、高い研究意欲を有する人。2.独創的なアントニア精神と探究心を兼ね備えた人。3.幅広い視野を持ち、国際的に研究活動を行う意欲を有する人。これらの達成度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

博士後期課程

バイオサイエンス専攻博士後期課程は、本学の建学精神である「実学教育」と「人格の陶冶」をふまえ、生物の多様な機能に着目した研究を通して、その原理を理解し、得られた成果を社会にフィードバックできる柔軟な思考力と創造力を持ち、人類が抱える食料・医療・創薬、エネルギーの諸問題を解決できる卓越した人材を育成します。これを実現するために、一般入学選考、社会人入学選考を実施いたします。博士後期課程の各選考・入学試験においては、研究に関するプレゼンテーションと口頭試問などにより評価します。また、口頭試問に関しては、以下の項目についてルーブリック(研究の意義の理解、専門知識と課題設定能力、研究遂行能力、プレゼンテーション能力)で総合的に評価しています。1.本専攻博士後期課程の教育・研究を理解、修得するのに必要な動物学、植物学、微生物学、化学に関する、高度で専門的な知識と高い語学力を持ち、問題解決に必要な課題設定能力と高い目的意識をもって研究計画を立案・遂行できる人。2.研究の学術的・実用的意義を理解し、さらに独創的なアントニア精神と探究心を兼ね備えた人。3.幅広い視野を持ち、研究成果を国際的に発信するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力、主体的に研究活動を行う意欲と能力を有する人。これらの到達度は、別に定める大学院アセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

医学研究科 医学系専攻 > 博士課程

……… 29

医学研究科では、本学の建学の精神である実学教育と人格の陶冶に則り、確かな学識と倫理的正当性に裏付けされた研究活動を自立して行うだけでなく、自らの医療実践の中に課題を求め、その解決によって医療さらに発展させる高度医療人の育成を目的としています。そのために提供するカリキュラムの学修に必要な基礎学力を有するとともに、専門分野の学識や外国語(英語)等の能力を有する学生を受け入れます。具体的には、以下に定める資質・能力について入学試験(外国語(英語)能力に関する筆記試験と、専門分野の学識に関する口頭試問)により確認します。1.知識・技能:医学研究科の課程を学修するために必要な基礎的な知識や技能を有している。2.思考・判断・表現:社会の課題について、医学・生物学に関連する観点から考察することができる。新鮮で独創的な着想を持つ人。3.主体性・意欲・態度:医学・生物学の学修に関する意欲を有している。自ら課題を設定し、積極的に研究に取り組む意欲のある人。4.各教科については、以下の内容を理解していることが求められます。外国語:医学・生物学に関する基礎的な英語教科書を読破できる能力。医学・生物学:標準的な教科書レベルの内容について理解し未解決の課題を抽出できる能力。

生物理工学研究科 生物学専攻／生体システム工学専攻 > 博士前期課程／博士後期課程

……… 31

博士前期課程

生物理工学研究科博士前期課程は、近畿大学建学の精神に則り、教育目的を実現するため、以下の項目を満たす学生を求めています。1.学士のレベルに相当する、生物学および工学を含む理工系科学・技術の基礎的素養と、グローバル社会に対応できる英語力を身につけている人。2.生物理工学研究科の学際的な先端技術分野で、専門知識を深く学び、課題の解決に取り組む意欲をもつ人。

3.自らの問題を解決するための創造力と論理的思考力を備え、さらに深い洞察力を獲得する意欲がある人。4.学修を通して得られた知識、知見を高い倫理観を持って人類社会の福祉と持続的発展に還元する意欲がある人。入学選考について：入学者選抜では、上記の人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるため、別に定める方法によって総合的に評価します。

博士後期課程

生物理工学研究科博士後期課程は、近畿大学建学の精神に則り、教育目的を実現するため、以下の項目を満たす学生を求めています。1.独創性に富む研究を行うに足る博士前期課程の基礎学力に相当する、生物学および工学を含む理工系科学・技術の基礎的素養を持ったうえで、グローバル社会に対応できる学修・研究に対する意欲や語学を含めたコミュニケーション能力を有する人。2.生物理工学の学際的な先端技術分野で、高度な専門知識を深く学び、グローバル社会における極めて重要な課題の解決に独創的な視点で取り組み意欲をもつ人。3.自らの問題を解決するための豊かな創造力と優れた論理的思考力を備え、さらに深い洞察力を獲得する意欲がある人。4.学修を通して得られた卓越した知識、知見を高い倫理観を持って人類社会の福祉と持続的発展に貢献する意欲がある人。入学選考について：入学者選抜では、上記の人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるため、別に定める方法によって総合的に評価します。

生物学専攻

博士前期課程

生物学専攻博士前期課程は、近畿大学建学の精神に則り、教育目的を実現するため、以下の項目を満たす学生を求めています。1.学士のレベルに相当する、生物学および工学の基礎的素養と、グローバル社会に対応できる英語力を身につけている人。2.動植物・微生物の分子生命工学、生殖再生・生体機能分子工学、生命環境工学、食の機能・食の安全工学などの分野で、専門知識を深く学び、課題解決に取り組む意欲をもつ人。3.自らの問題を解決するための創造力と論理的思考力を備え、さらに深い洞察力を獲得する意欲がある人。4.学修を通して得られた知識、知見を高い倫理観を持って人類社会の福祉と持続的発展に還元しようとする人。入学選考について：入学者選抜では、上記の人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるため、別に定める方法によって総合的な評価を行います。

博士後期課程

生物理工学研究科生物学専攻博士後期課程は、近畿大学建学の精神に則り、教育目的を実現するため、以下の項目を満たす学生を求めています。1.生命現象と科学技術に広く関心と理解を持ち、独創性に富む研究を行うに足る博士前期課程の基礎学力に相当する、動植物・微生物の分子生命工学、生殖再生・生体機能分子工学、生命環境工学、食の機能・食の安全工学などの分野の基礎的素養を持ったうえで、グローバル社会に対応できる学修・研究に対する意欲や語学を含めたコミュニケーション能力を有する人。2.生物工学の先端技術分野で、高度な専門知識を深く学び、グローバル社会における極めて重要な課題の解決に独創的な視点で取り組み意欲をもつ人。3.自らの問題を解決するための豊かな創造力と優れた論理的思考力を備え、さらに深い洞察力を獲得する意欲がある人。4.学修を通して得られた国際的な視野に基づく卓越した意識と高い倫理観を、自然と人間の営みについての複眼的な思考を通して人類社会の福祉と持続的発展に貢献する強い意欲がある人。入学選考について：入学者選抜では、上記の人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるため、別に定める方法によって総合的な評価を行います。

生体システム工学専攻

博士前期課程

生体システム工学専攻博士前期課程は、近畿大学建学の精神に則り、教育目的を実現するため、以下の項目を満たす学生を求めています。

1.生体システム工学専攻の何れかの分野で学ぶために必要となる、学士のレベルにふさわしい理工系の素養と英語力を持つ人。2.生体システム工学専攻の何れかの分野に強い関心があり、その専門知識を深く学ぶ意欲がある人。3.自らの問題を解決するための創造力と論理的思考力を備え、さらに深い洞察力を獲得する意欲がある人。4.学修を通して得られた知識、知見を高い倫理観をもって社会に還元しようとする人。入学選考について：入学者選抜では、上記の人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるため、別に定める方法によって総合的な評価を行います。

博士後期課程

生物理工学研究科生体システム工学専攻博士後期課程は、近畿大学建学の精神に則り、教育目的を実現するため、以下の項目を満たす学生を求めています。1.独創性に富む研究を行うに足る博士前期課程の基礎学力に相当する理工系科学・技術の基礎的素養を持ったうえで、グローバル社会に対応できる学修・研究に対する意欲や語学を含めたコミュニケーション能力を有する人。2.生体システム工学専攻の先端技術分野で、高度な専門知識を深く学び、グローバル社会における極めて重要な課題の解決に独創的な視点で取り組み意欲をもつ人。3.自らの問題を解決するための豊かな創造力と優れた論理的思考力を備え、さらに深い洞察力を獲得する意欲がある人。4.学修を通して得られた卓越した知識、知見を高い倫理観をもって社会に還元しようとする人。入学選考について：入学者選抜では、上記の人物像を備えた人材を国内外から広く受け入れるため、別に定める方法によって総合的な評価を行います。

システム工学研究科 システム工学専攻 > 博士前期課程／博士後期課程

……… 33

博士前期課程

システム工学研究科では、近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」に基づいて、人間と自然が共存できる持続可能な社会の構築に貢献できる能力や高度な学識を持つ研究者や高度専門職業人としての技術者を育成することを目指しています。この育成を実現するため、次のような入学者を受け入れます。これら能力・資質については、学内推薦入学選考、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考における口頭試問と学力試験により確認します。また、工学の学修に必要な専門基礎学力については、すべての入試制度で確認します。また、評価にあたっては、各観点を明確化したルーブリックを用い、透明性と公平性を確保しています。1.知識・技能:幅広い教養と実学としての工学分野の能力を発展させるための基礎的な知識と技能を有している。2.思考力・判断力・表現力:人間と自然が共存できる持続可能な社会の構築について、工学的な視点から考察する能力を有している。3.主体性・意欲・態度:複雑化する工学的課題に果敢にチャレンジし、探求能力と倫理観を持って、グローバルに活躍する意欲を有している。これらの達成度は、別に定めるアセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

博士後期課程

システム工学研究科では、近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」に基づいて、人間と自然が共存できる持続可能な社会の構築に貢献できる能力や高度な学識を持つ研究者や高度専門職業人としての技術者を育成することを目指しています。この育成を実現するため、次のような入学者を受け入れます。これら能力・資質については、一般入学選考、社会人入学選考における口頭試問と学力試験により確認します。また、工学の学修に必要な高度な専門基礎学力については、すべての入試制度で確認します。なお、評価にあたっては、各観点を明確化したルーブリックを用い、透明性と公平性を確保しています。1.知識・技能:幅広い教養と実学としての工学分野の能力を発展・深化させるための高度な知識と技能を有している。2.思考力・判断力・表現力:人間と自然が共存できる持続可能な社会の構築について、工学的な視点から考察し、解決策を提言し、実行できる能力を有している。3.主体性・意欲・態度:複雑化する工学的課題に果敢にチャレンジし、高い探求能力と倫理観を持って、グローバルリーダーとして活躍する意欲を有している。これらの達成度は、別に定めるアセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

産業理工学研究科 産業理工学専攻 > 博士前期課程／博士後期課程

……… 35

博士前期課程

産業理工学研究科は、近畿大学の建学の精神と教育の目的に即して、ハードサイエンスとソフトサイエンスの融合のもと、社会に信頼され地球環境に調和する産業科学技術の展開を図り、持続可能な循環型知識基盤社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しています。本研究科では、この教育理念に共感し、ディプロマポリシーに示した人材になることを希望する次のような入学者を受け入れます。1.専門分野の知識と技術を修得するための基礎的な学力とコミュニケーション能力を有する人。2.専門及び関連分野の知識や技術を修得し、専門家として自立する意欲のある人。3.自ら学ぶ意欲をもち、多角的な視点から新たな知見や技術を創出する情熱のある人。

本研究科では、このような人を受け入れるために、学内推薦入学選考・学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考を実施します。学内推薦入学、社会人入学選考では専修科目に関する口頭試問試験により合否判定を、その他の選考・入学試験では、筆記試験と専修科目に関する口頭試問試験を行い両方の結果を統合して合否判定を行います。口頭試問においては、アドミッションポリシーの各項目に記載された能力、意欲、情熱を評価するための基準をルーブリック評価に定め、これに沿って公平で客観的な評価を行います。

博士後期課程

産業理工学研究科は、近畿大学の建学の精神と教育の目的に即して、ハードサイエンスとソフトサイエンスの融合のもと、社会に信頼され地球環境に調和する産業科学技術の展開を図り、持続可能な循環型知識基盤社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しています。本研究科では、この教育理念に共感し、ディプロマポリシーに示した人材になることを希望する次のような入学者を受け入れます。1.専門分野の高度な知識と技術を修得するための専門性と研究能力を有する人。2.専門及び関連分野の知識や技術を幅広く深化して、専門領域を極める意欲のある人。3.自ら行動し、失敗を恐れずチャレンジして、既存概念にとらわれることなく多角的な視点から新しい価値を創り出す意欲のある人。

本研究科では、このような人を受け入れるために、学内入学選考、一般入学選考、社会人入学選考では専修科目に関する口頭試問試験により合否判定を、その他の選考・入学試験では、筆記試験と専修科目に関する口頭試問試験を行い両方の結果を統合して合否判定を行います。口頭試問においては、アドミッションポリシーの各項目に記載された能力、意欲、情熱を評価するための基準をルーブリック評価に定め、修士論文・学会発表・論文など含め総合的に公平で客観的な評価を行います。

実学社会起業イノベーション学位プログラム 修士課程

……… 37

実学社会起業イノベーション学位プログラムでは、本大学院が建学の精神と教育目標のもと積み上げてきた強みと特色を踏まえて、特定の学問体系にとらわれないアントレプレナーシップが涵養され、社会課題を主体的に発見し、その解決に向けて挑戦する精神を備え、学際的な学修に裏打ちされた実学的知の社会実装を実現することを目標とする。修士課程では、法学・経済学・工学の力ならず既存の学問体系を超えて、多様化する社会のニーズや課題を研究テーマとして発見し、その課題を解決するための情報収集能力や知識・技術を身につけ、高い倫理性をもって起業イノベーション創生に従事することで、持続可能な地球社会の共存と調和に貢献できる人の育成を目指す。そのためには、法学・経済学・工学のみならず既存の学問体系を超えて未来をイメージして挑戦できる力、本質的な社会課題を抽出できる力、社会課題に対応する多様な分野の情報収集と解決策を主体的に創造できる力、センスメイキング能力を備えて実行できる力が必要である。このような目標のもと、実学社会起業イノベーション学位プログラム修士課程では、以下のような学生を求めています。

修士課程

1.常に新しいチャレンジを成長につなげようとする意欲を持っている人。2.国内外のアントレプレナーと議論してコミュニケーションできる言語化力・理解力・思考力・表現力を持っている人。3.既存概念にとらわれず新しい学問・研究に対して、主体的に考え、情報収集し問題解決することに意欲を持っている人。4.社会問題の解決を通じて、社会の発展に寄与するという責任感・使命感・倫理観のある人

法学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程



高度な法知識を備えた 創造性豊かな人材を育成します

法学研究科では、憲法・民法・商法・刑法・訴訟法などの
主要な実定法学科目はもとより、法制史・英米法などの基礎法学科目、
政治学・行政学などの政治学関係科目に至るまで、幅広い多様な科目が開講されています。

法律学専攻

博士前期 博士後期

法学・政治学の分野において、指導的な役割を
果たし得る専門家を養成する専攻

法学研究科の特長

深遠な学識を身に付ける博士前期課程と高度な 専門職に必要な研究能力を養う博士後期課程

博士前期課程は、法学や政治学などについての高度な専門知識を身に付けることを目標とし、学問的なレベルの高い専修科目、専修科目と関係する隣接科目、国際化に対応した外国語科目などを配置しています。博士後期課程は、より高度な専門知識を有する自立した研究者、さらには将来の法学教育を担う人材を養成することを目標としています。

広い視野に立って精深な学識を身に付け、研究能力や高度な専門性を要する職業に必要な高い能力を養う。

博士前期課程
2年

博士後期課程
3年

研究者として自立して研究活動を行い、高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力と、その基礎となる豊かな学識を養う。

高度な専門性が多様な未来へと導く

本研究科の博士前期課程を修了した学生の中には、税理士、司法書士、その他国家試験による資格の取得を目的とする学生が多数います。すでにその目的を達成して、現在実務で活躍している修了生も少なくありません。博士後期課程へ進んで研究者としての道を歩み、大学教員などの職に就き、業績をあげている修了生もいます。



理論と実務の架橋の試み

実学教育という建学の精神は、理論と実務の架橋を要請します。これを具体化する特徴的な授業として、(ア)民法や会社法に関連して「不動産登記法研究」「商業登記法研究」が、また、(イ)租税法の各分野として「法人税法研究」「所得税法研究」「相続税法研究」「消費税法研究」が設けられ、それぞれ優れた実務家によって担当されています。そして、(ア)の2科目が司法書士としての能力を、(イ)の4科目が税理士としての能力を涵養するためにも役立つことは言うまでもありません。



法学研究科における
SDGs達成に向けた
取組み

Graduate School
of Law

研究科長メッセージ

高度な教育と新たなアイデアを生み出す場を提供します

法学研究科は、法学・政治学の分野での高度な専門性を
持ち指導的な役割を果たす専門家を養成することを目標と
しています。また、そのために必要な環境づくりとして、少人
数教育・対話型授業の実践に取り組んでいます。各分野の
専門家である教員と共に学び、研究を進めるだけでなく、

異なる背景を持つ者が集まり、それぞれの個性や視点から
新たなアイデアを出し議論することは、学問的な探求・研究
の進展に大いに寄与すると考えます。皆さんの学びと研究
が実り多きものになるようサポートしてまいります。

研究科長 松久 和彦 教授

● 法学研究科の教育・研究の目的

本学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」を踏まえ、幅広い視野に立った学識を授け、激動する今日の社会において、時代に即応する最先端の専門性の修得をめざします。国際社会、国家、地域において実際に指導的な役割を果たす専門家であり、かつ将来の社会のあり方にも影響を与え得る「教養」と「専門性」を有する人材を養成します。

● 授与する学位

博士前期課程／修士(法学) 博士後期課程／博士(法学)

● 進路イメージ

論理的思考を生かして多方面で活躍できます

博士前期課程修了者の進路は、基本的に2方向に分かれます。一つは、法学研究科の後期課程、商学・経済学などの隣接研究科の前期課程、法科大学院などへの進学。もう一つは、前期課程の研究成果を生かし、税理士、教育機関(学校、専門学校など)、公務員、民間企業などへの就職です。

● 研究分野例

- 民法 ○社会保障法 ○産業保健法 ○国際私法 ○英米法 ○租税法 ○刑事法 ○刑事手続法
- 商法 ○知的財産法 ○民事訴訟法 ○憲法 ○行政法 ○政治学 ○行政学 ○公共政策 など

在学生からのメッセージ

所得税法56条の
実態との乖離を整理し、
公平な税制の実現へ



法律学専攻
博士前期課程 1年

租税法に着目し、所得税法56条(事業所得等における必要経費の特例)を中心に研究しています。所得税法56条は、同族関係者などの所得計算における適正を確保するための規定ですが、個別事案によっては実態との乖離が生じ得る課題も抱えています。そこで本研究では、所得税法56条の解釈と適用のあり方を整理し、納税者の予見可能性を高めるとともに、課税の公平性の確保に資する視点を探究しています。あわせて、課税庁との不要なトラブルの抑止にもつながる議論を提示したいと考えています。将来は、納税者と税務行政の架け橋となる信頼される税理士をめざし、社会全体の円滑な税制運用に貢献したいと考えています。

デジタル証拠利用の
課題を理論的に整理し、
人権保障に貢献したい



法律学専攻
博士後期課程 1年

刑事手続における人権保障のあり方について、理論と実務の双方から検討したいと考え、現在、デジタル証拠の検索・差押えにおける「目的外使用の許容性」をテーマに研究しています。デジタル証拠は、従来の刑事訴訟法の枠組みでは整理しきれない課題を多く含みます。そこで、技術的背景を踏まえるとともに、外国法の判例理論も参照しながら、日本の現行制度の下でいかに位置づけるべきかを考察しています。本研究により、デジタル証拠の検索・利用における限界設定を理論的に明確化し、捜査の適正と個人の権利保障の両立に資する視座を提示することで、将来的に立法論および実務への貢献をめざします。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

法学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/law/about/graduate/>

商学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程



現実に起こる諸問題を 解決へと導く判断力を育成します

本研究科では、国際化・情報化社会に対応するため、理論研究に加えて実践的な応用力を養うことにも配慮して、商学、経営学、会計学、ITビジネス、キャリア・マネジメント学、スポーツマネジメントの各関係内および各関係間の有機的結合に重点を置いたカリキュラムが編成されています。

現実を分析する鋭い洞察力を獲得し解決方策を
探求・評価・選択できる判断力を育成します



商学研究科の特長

商学関係の特色

商学関係では、現代のビジネス社会や企業に生起する現象を、さまざまな角度から総合的に研究しています。商学の研究分野には、企業の市場行動である「マーケティング戦略」と企業環境の「商学関連」があります。商学関係では、「市場環境変化に対して企業がとる創造的かつ統合的行動」を研究する「マーケティング研究」を中心に、「商学関連分野」の研究も積極的に進めています。開講科目のうち、マーケティング戦略に関わる科目として、リレーションシップ・マーケティング特論、観光マーケティング特論、消費者行動特論など、商学関連科目として、流通システム特論、貿易特論、保険特論などを挙げるすることができます。

会計学関係の特色

会計に関する研究領域は、財務会計論、管理会計論、監査論などに大きく分けることができます。会計学は、企業の内部・外部にいる情報利用者に提供される会計情報の認識、測定、伝達について研究することを目的とします。会計をとりまく社会環境は国際化・多様化し、会計基準、監査基準も国際化、IT化に対応したものが求められています。この先進的な会計研究について理論から実践までを修得できるよう配慮しています。そこで、原価計算特論、簿記特論、会計監査特論などの科目が置かれています。

キャリア・マネジメント学関係の特色

キャリア・マネジメント学関係は、経営資源の「ヒト」に特化し、人材の有効活用を図るにはどのようにすればよいかを研究します。経営学では、従来、「組織」の視点が強調されてきましたが、キャリア・マネジメント学では、組織を構成する人材、個人の視点から人材マネジメント論、キャリア論の新たな領域の開発に努めます。深い人間理解に基づく新しい時代のビジネス研究といえるでしょう。開講科目のうち、キャリア開発特論、ビジネス倫理特論、ベンチャービジネス特論などを中心として、組織目標の達成、個人のキャリア形成の融合を図る理論・実証的研究を進めていきます。

経営学関係の特色

経営学関係は、「マネジメント」を共通の研究対象としています。しかしながら、マネジメント・ジャングルと呼ばれるように、現在では多様なマネジメントの在り方が提唱され、結果として、多彩な理論が展開されています。そこで、研究アプローチとして、(a)経営資源の管理原則を解明するためのものと、(b)企業・組織の行動原則を検討するためのものに大別しています。実際にマネジメントを研究するためには、2つのアプローチを適宜使い分ける必要があります。経営資源の管理原則を解明する科目は、人的資源管理特論、経営組織特論、財務管理特論など、企業・組織の行動原則を検討する科目は、経営戦略特論、産業組織特論、企業行動特論などを挙げるすることができます。

ITビジネス関係の特色

ITビジネス関係はビジネスにおける情報とその取り扱いを研究対象としています。研究内容には、2つの領域があります。その一つは、ITビジネスのプロフェッショナルとしてITを前提とした新しいビジネスモデルの研究です。もう一つは、システム設計のプロフェッショナルとして戦略的情報システムの企画・設計・制作の実証的研究です。ITビジネスのプロフェッショナルをめざす主たる科目は、経営情報特論、行動情報特論です。システム設計のプロフェッショナルをめざす主たる科目は情報倫理特論です。

スポーツマネジメント関係の特色

スポーツマネジメント関係はスポーツの関連する産業・ビジネスの発展とスポーツ文化の振興を研究対象としています。またこれらの研究領域では、健康関連産業とも密接に関連し、健康寿命の延伸による国民医療費削減をめざす施策を背景とし、健康・スポーツ分野での高度なマネジメント能力を有する専門家の養成が期待されています。これらの要請に応えるために、運動行動・健康プロモーション特論を中心に、スポーツプロモーションおよびヘルスプロモーションについて研究を進めます。



商学研究科における
SDGs達成に向けた
取組み

Graduate School
of Business Administration

研究科長メッセージ

ビジネス社会の諸問題を実学に精通した豊富な教員スタッフのもと挑む

商学研究科は、本学大学院の中で、最も歴史のある研究科です。また、約50名の教員スタッフにより、実務界・学界などで活躍・貢献できる人材の育成のために、商学、経営学、会計学、ITビジネス、キャリア・マネジメント学、スポーツマネジメントの6つの分野を対象に、より深く学び、より深く研究したいという大学院生のニーズに応えなが

ら、高度な専門知識・高度な研究能力の修得をサポートしています。高い意識と高い意欲を持った皆さんが、商学研究科に進学し、深い学びや深い研究の楽しさに触れ、優れた研究成果を挙げることを願っています。

研究科長 古殿 幸雄 教授

● 商学研究科の教育理念

実学重視という観点から、商学、経営学、会計学、ITビジネス、キャリア・マネジメント学、スポーツマネジメントの6つの各関係内および各関係間の有機的結合に重点を置いたカリキュラムを編成して、所属する大学院生が、企業経営の戦略面や技術面において、商学研究科で得られる高度な専門知識を実際に活用することをめざしています。商学研究科で修得した高度な専門知識が企業経営の現場で実際に活用できるという強い信念と自信を持たせる教育を行っています。

● 授与する学位

博士前期課程／修士(商学) 博士後期課程／博士(商学)

● 進路イメージ

博士前期課程修了者の進路については、おおよそ2つの方向に分けることができます。その一つは、税法などの科目の置かれている法学研究科、商学研究科博士後期課程への進学です。もう一つは、一般企業、公務員などに就職するという進路です。博士後期課程修了者については、大学の教員など、研究者として活躍するという進路を挙げるすることができます。

● 研究テーマ例

商学関係	経営学関係	会計学関係	ITビジネス関係	キャリア・マネジメント学関係	スポーツマネジメント関係
<ul style="list-style-type: none"> ◎ ブランド ◎ 旅行産業 ◎ 流通システム 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 経営組織 ◎ 人的資源管理 ◎ 財務管理 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 簿記 ◎ 国際会計 ◎ 会計監査 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 経営情報 ◎ 情報倫理 ◎ 行動情報 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ キャリア開発 ◎ ビジネス倫理 ◎ ベンチャービジネス 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 運動行動・健康プロモーション など

● 科目等履修生制度を利用したりカレント教育対応科目もあります。

在学生からのメッセージ

現場の工夫を理論で解き、
インバウンドを契機に
飲食店の可能性を開く



商学専攻
博士前期課程 1年

「小規模飲食店におけるインバウンドの効果」をテーマに、動的ケイバリティ(環境変化への適応力)とアントレプレナーシップの観点から、個人店や百貨店内店舗の現場の工夫を調査しています。工夫が売上・顧客評価や業務・意思決定の変化にどう結びつくかを整理・分析し、理論との接点を明らかにして実践知として現場へ還元することをめざします。将来は成果を起業や家業継承に生かし、変動する需要にも対応できる持続的成長につなげたいです。

SNSの「本音」を可視化。
消費者行動を解析し、
情報発信・設計へ生かす



商学専攻
博士後期課程 1年

SNS投稿における言語表現や感情表現が、消費行動や評価行動にどのような影響を与えるのかを、テキストマイニング手法を用いて分析しています。SNS上のデータには消費者の本音が反映されやすい点に着目、ニーズや行動特性を可視化し、より効果的な情報発信やサービス設計につながる示唆を得ることをめざしています。将来は、大学・研究機関や企業においてデータ分析および消費者行動の研究に携わり、社会や産業の発展に貢献したいと考えています。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

商学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/business/about/graduate/>

経済学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程



現実の経済社会が直面する問題に 対処できる人材を育成します

博士前期課程では、理論・計量分析、公共政策・産業、国際経済・歴史の3分野において、多くの教員による少人数教育によって系統的な講義科目の修得をめざし、博士後期課程では、指導教員と関連分野の副指導教員との「複数指導体制」によって博士学位の取得をめざします。

経済学専攻

博士前期 博士後期

「実学の精神」を重視して、研究者や
専門職の養成を目的としています

経済学研究科の特長

高いレベルの研究者と 専門職を養成しています

本研究科では、現実の経済社会が直面する課題を解決しうる研究者の育成と、高度な専門知識を持つ職業人の養成をめざしています。また、研究の場の門戸を社会人に広く開いた「夜間主コース」を設置するなど、その研究心を応援しています。

修士論文に代わる 特定課題研究(社会人院生)

実社会の現場における実務経験や実態把握などにもとづき、社会的問題の解決に向けた実践的活用が具体的かつ明確な課題を対象とする研究成果を、修士論文と同等に評価して修士の学位を授与します。

研究者の養成

理論・計量分析

公共政策・産業

国際経済・歴史

専門職の養成

社会人のための
夜間主コース

多様な知識を
得るための
教育プログラム

教職資格に
必要な
講義科目



経済学研究科における
SDGs達成に向けた
取り組み

Graduate School
of Economics

研究科長メッセージ

最先端の科学的知見を実践の場に

経済学研究科は、経済学の解析手法から得られる科学的知見を実践の場に適用できる人材を育成すべく、以下の特長を有した学びの場を提供しています。第一に、経済学の理論や計量経済学の解析手法を体系立てて学修できるだけでなく、経済実験、フィールド調査、公共政策、国際経済、文献・史料解説など、幅広い分野の最先端で活躍する研究者の指導のもとに研究を進めるこ

とができます。第二に、多彩な分野の中心的研究者を招いた研究会を定期的に開催し、大学院生が最先端の研究に触れる機会を設けています。第三に、夜間主コースを設けることにより、社会人の方も無理なく大学院で学べる機会を提供しています。現代社会の背後に潜むメカニズムや法則について、本研究科で新しい知見をともに探求しませんか？

研究科長 星河 武志 教授

● 経済学研究科の教育理念

本学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」に則り、現実の経済社会が直面する課題に関する先端的研究を踏まえて、①各専門分野で高度な知識に裏付けられた「問題発見型」の人材、②経済現象に対する高度な分析能力を持った「問題解決型」の人材、③対人関係や社会現象を「広い視野から温かい心」で分析できる人材を育成します。

● 授与する学位

博士前期課程／修士(経済学) 博士後期課程／博士(経済学)

● 進路イメージ

経済学の各分野で培った専門能力を生かし、企業の調査・審査部門や行政職の企画部門などで、問題発見・解決型の人材としての活躍が期待できます。また、高等学校教諭専修免許状の取得をめざし、教職の道に進む修生もいます。

● 研究テーマ例

- | | | | | | |
|--------|-----------|--------|-------|---------|--------|
| ◎理論経済 | ◎応用計量経済 | ◎ゲーム理論 | ◎財政 | ◎交通経済 | ◎中国経済 |
| ◎経済学史 | ◎行動経済 | ◎実験経済 | ◎地方財政 | ◎社会保障 | ◎日本経済史 |
| ◎ミクロ経済 | ◎経営情報システム | ◎空間経済 | ◎地域経済 | ◎金融市場 | ◎西洋経済史 |
| ◎マクロ経済 | ◎経営情報 | ◎公共経済 | ◎環境経済 | ◎都市政策 | ◎国際投資 |
| ◎金融論 | ◎経済地理 | ◎経済政策 | ◎社会調査 | ◎アメリカ経済 | など |

在学生からのメッセージ

臓器提供の意思決定
メカニズムを研究し
臓器提供率を高めたい



経済学専攻
博士前期課程 2年

「家族の臓器提供を賛成するか?」、「自分自身が臓器提供を行うか?」などのアンケート調査によって、臓器提供の意思決定メカニズムを解明しています。臓器提供率についての研究結果を導き出すことで、社会における臓器提供率の向上に貢献することをめざしています。

日本の外貨準備と
対外負債の関係を
モデル化して研究



経済学専攻
博士前期課程 2年

学部で財務管理を学び、現在は「日本における外貨準備と対外負債の関係について」をテーマに研究しています。外貨準備金は対外貿易において重要なものであり、両者の関係をモデル化することは意義があると感じています。卒業後は、研究で得た知識を活かし金融業界での活躍をめざします。

人民元対日本円の
為替変動を研究し、
日中貿易の問題解決へ



経済学専攻
博士前期課程 2年

近年、特に活発に変動する人民元と円の為替が日中貿易にどのような影響を与えるかを研究しています。膨大なデータ分析により、為替変動が貨物輸入総額や輸出入総額に与える影響を導き出すことで、日中貿易に存在するリスクと問題の解決に貢献できるよう研究を深めていきたいです。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

経済学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/economics/about/graduate/>

総合理工学研究科

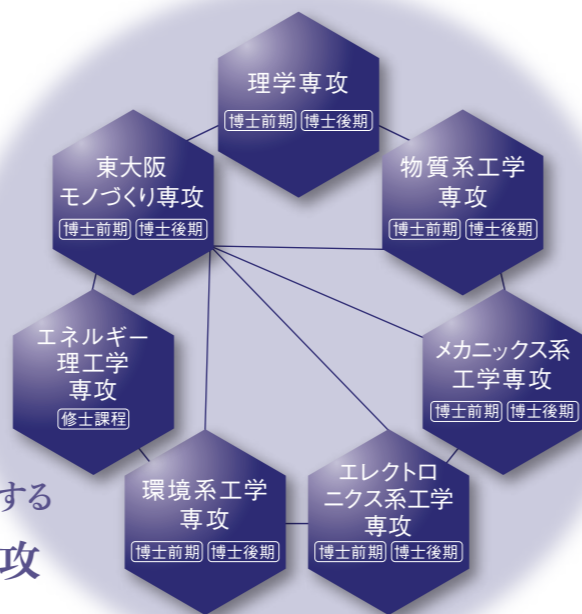
- 博士前期課程
- 博士後期課程
- 修士課程



総合理工学研究科では 幅広い領域を 学際的に研究します

独創的な7つの研究ユニットによって、各分野を横断する自由な研究、高次元の学際的な研究・教育を実現しています。
また、世界最高水準の研究機器が並ぶ共同利用センターを擁し、私立大学としては類例のない施設・設備を整えています。

知の創造と産業の発展と福祉に貢献する 独創的な7つの専攻



総合理工学研究科の特長

産業、バイオサイエンス、環境分野、モノづくりへの応用研究まで幅広く社会に寄与する研究活動を行っています

総合理工学研究科は、高度な科学技術に関する教育と研究を通じて、地域社会、国および人類の知創造と平和と福祉に貢献することを理念とします。また、新しい燃料資源パイオコークスの研究開発、毎秒1億枚の超高速ビデオカメラの開発、次世代コンピュータといわれる量子コンピュータの実現に向けた研究など、多様な研究活動を行っています。近畿大学総合理工学研究科では、多岐に渡る専門分野がその特徴ですが、その分野の枠を超えた研究者同士のつながりを広げる機会として、「総合理工マスターズ」を毎年開催しております。修士課程・博士前期課程1年生と博士後期課程2年生を対象に、研究成果の中間報告としてポスター発表と口頭発表の機会を設けております。異分野交流と自己啓発の機会と捉え、大学院生としての実力を伸ばして欲しいと考えています。このほか、本研究科にはアジアを中心に様々な国からの留学生が在籍し日本人学生と共に勉学・研究に励んでおり、学生の要望に応じて英語のみで実施する講義もありグローバル化が進んでいます。



総合理工学研究科における
SDGs達成に向けた
取組み

Graduate School
of Science and Engineering

研究科長メッセージ

グローバル社会で生きる力を有する研究者・エンジニアを育成します

総合理工学研究科は、「地域社会、国および人類の知の創造と平和と福祉に貢献する」ことを理念に高度の科学技術に関する教育と研究を行っています。限りある資源を活用し、無限の創造力を発揮して人類の未来を築くことが、私たちの目標です。教職員と大学院生の距離感が近く、目的意識や意欲の高いエネルギー溢れるメンバーで、狭い専門領域にとられない幅広い視野と柔軟な思考力を持った研究者や高度専

門職業人を養成しています。令和8年度には研究科を再編し、新たに「エネルギー理工学専攻」を開設しました。理学と工学にわたる全7専攻において、様々な分野の基礎から最先端の応用まで、世界に誇れる研究ができる環境がココにあります。急速に進歩し変化する科学技術の世界において、私たちと共に学び、未来に貢献できる力を磨いてみませんか？

総合理工学研究科長 森本 健志 教授

● 授与する学位

- 理学専攻
博士前期課程／修士(理学) 博士後期課程／博士(理学)
- エネルギー理工学専攻
修士課程／修士(理工学)
- その他の専攻
博士前期課程／修士(工学) 博士後期課程／博士(工学)

● 総合理工学研究科の教育理念

高度の専門性を要する職務の遂行に必要な幅広い学識および科学技術を修得するとともに、研究職にあつては自立して研究活動を行う能力、技術職にあつてはリーダーとしての高度な技術開発業務を統括し推進できる力を身に付けます。加えて、研究者・技術者としての社会的責任の自覚と、国際化も視野に入れたプレゼンテーションとコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目的に、理学から工学まで、人間環境から地球環境までを視野に入れた人間性重視の研究と教育を目標としています。

● 進路イメージ

研究者、教育者、技術者、公務員と進路はさまざまですが、大学院で学び身に付けたことを生かせる進路へと進んでいます。また前期課程修了者の中から後期課程へ進みさらに研究を深めるケースもあります。

● 研究分野例

理学専攻

- ◎数理解析 ◎物理学
- ◎機能性分子化学
- ◎生物・環境化学

メカニクス系工学専攻

- ◎材料・プロセッシング・材料強度学
- ◎エネルギー・流れ
- ◎機力・制御 ◎設計・生産加工

環境系工学専攻

- ◎地球・社会環境工学
- ◎都市・居住環境計画
- ◎構造・材料・地盤工学

東大阪モノづくり専攻

- ◎総合理工学研究科の全研究分野に対応

物質系工学専攻

- ◎分子プロセス工学
- ◎複合物質工学
- ◎材料創成工学

エレクトロニクス系工学専攻

- ◎計測・情報システム
- ◎材料・デバイス

エネルギー理工学専攻

- ◎次世代インフラエネルギー理工学
- ◎エネルギーマテリアル理工学
- ◎ライフデバイスエネルギー理工学

など

在学生からのメッセージ

工事現場で活躍する疲労検知システムを搭載したヘルメットの商品化をめざす



エレクトロニクス系工学専攻
博士前期課程 2年

将来システムエンジニアをめざしており、研究室では「モバイルデバイスを利用した疲労検知システムの開発」を行っています。方法として、ヘルメットにカメラを装着して撮影した動画を解析します。現在、工事現場での利用を目標に企業との共同研究を進めています。今後は疲労感知システムの精度向上を図り、学会での成果発表、および商品化に向けて邁進したいと考えています。

専門教員が揃う環境で蛋白質が立体構造を形成する道筋を解明し、技術開発に貢献したい



理学専攻
博士後期課程 2年

蛋白質がどのようにして立体構造を形成するか、道筋を解明する研究を行っています。蛋白質の立体構造はその機能に大きく影響を与えるため、正しい形ができる過程を理解することが重要です。研究科には私の研究テーマに精通した教員が揃っており、最適な環境で専門性を高められます。将来は、蛋白質科学分野での専門家としてキャリアを築き、研究者として技術開発や教育に貢献したいです。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものであります。

総合理工学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/science-engineering/about/graduate/>

建築学研究科

□ 修士課程



建築学の専門性を高めた教育と研究を行い、 変化する社会に対応できる人材を養成します

近畿大学の持つ総合性を最大限に引き出す
画期的なシステムと、各教員の優れた研究成果に
支えられる充実の教育によって、
社会で即戦力となる専門的職業人の
育成をめざします。

新たなデザイン・環境を
創造する人材を養成する
2つの専攻



建築学研究科の特長

建築工学専攻

先端研究で高度な知識と倫理観を備えた 建築工学の専門家を育成

本専攻で学生たちは、地球環境保全や社会基盤形成に関わる専門知識を修得します。さらに先端研究に携わることを通じて高度な知識・分析力・総合力を身につけます。私たちは、学問・研究に対する積極的な意欲持ち、高い技術力と倫理観を備えた技術者・研究者および事業者を養成します。



建築デザイン専攻

建築デザインの力で社会課題を解決、 国際的な視野と高い倫理観を持つ専門家を育成

本専攻で学生たちは、建築デザイン分野の高度な専門知識を修得します。さらに実践的な演習等を通じて、社会課題の解決を導く優れたデザインとプレゼンテーションの能力を養います。私たちは、国際的な視野と高い倫理観を持ち、他分野と協働しながら計画的に建築デザインを実践する総合的な専門技術者および事業者を養成します。



建築学研究科における
SDGs達成に向けた
取組み

Graduate School
of Architecture

● 建築学研究科の教育理念

建築工学専攻／建築デザイン専攻

建築や都市に関する高度かつ領域横断的な知識を身につけ、国際社会および地域社会で建築や都市環境の創造、運営、再生において建築家、都市計画家、建築技術者および事業者として主導的かつ指導的役割を果たせる人材を養成する教育・研究を行います。

● 授与する学位

- 建築工学専攻
修士課程／修士(工学)
- 建築デザイン専攻
修士課程／修士(建築学)

● 進路イメージ

建築工学専攻／建築デザイン専攻

修了後は建築デザイン、建築計画、都市計画、環境工学、材料工学、構造工学の高度な知識と技術を用いて、ゼネコン、ハウスメーカー、研究機関、専門工事業業者、組織設計事務所、構造設計事務所、アトリエ設計事務所、都市計画事務所、ランドスケープデザイン事務所、デベロッパー、官公庁などの専門性の高い部門での活躍が期待されます。

● 研究分野例

建築工学専攻

- ◎環境・材料工学
- ◎都市・建築計画学
- ◎建築構造工学

建築デザイン専攻

- ◎建築デザイン学



教員からのメッセージ

デザインと工学を融合し、 建築・都市の未来を創造する

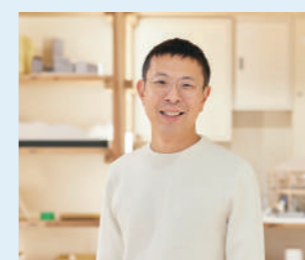
建築学研究科では建築や都市の創造や再生、運営に関するエキスパートを養成するべく、デザインと工学を包括する体制を組んでいます。自らの専門領域のみならず、周辺領域も学べる環境があります。専門性の高い研究を自ら進めることで、世の中に横たわる問題を発見する能力とそれを解決する力身につけましょう。

建築学研究科長
宮部 浩幸 教授



研究活動を通じたさらなる 成長を!

建築工学専攻長
安福 勝 教授



建築工学専攻では、地球環境保全や社会基盤形成などに関係する建築工学分野の専門知識を修得します。充実した研究設備を活用し、先端研究に携わることで、研究意欲や探求心、分析力を養います。また、語学教育、産官学連携、学会発表にも力を入れています。

柔軟な思考と 創造性を 実践で磨く

建築デザイン専攻長
高岡 伸一 教授



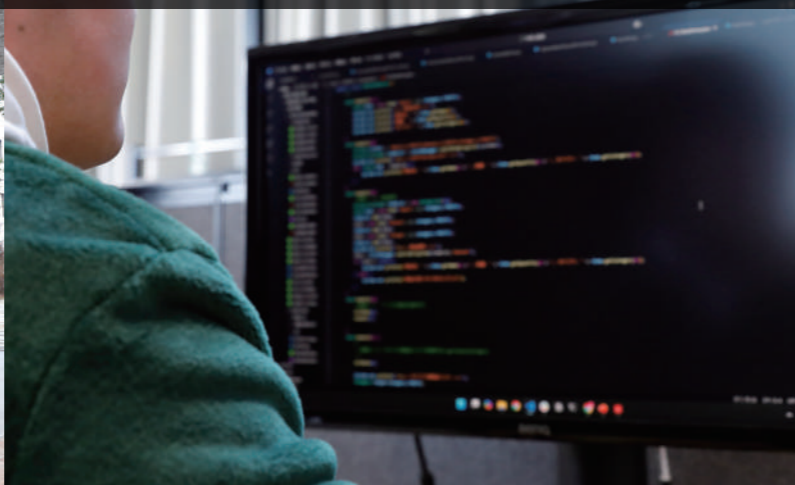
最前線で活躍する建築家やランドスケープアーキテクトを擁する建築デザイン専攻では、実践的な演習やインターンシップに重点を置いたカリキュラムを編成しています。建築工学専攻との横断的な学修を通じて高度な専門知識を身に付け、学内外の様々な人々から刺激を受けて、柔軟な思考とクリエイティブなデザイン能力を育んでください。

建築学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/architecture/about/graduate/>

情報学研究科

□ 修士課程



超スマート社会でイノベーションを起こす 知のプロフェッショナルを育成します

情報学研究科では、国が掲げる「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」を実現するために、高度で広範な専門知識と倫理観に基づき、自ら考え行動することで、新たな知見や価値を生み出すことができる技術者や研究者である「超スマート社会でイノベーションを起こす知のプロフェッショナル」を育成します。

情報学専攻
修士課程

高度情報社会を地球的規模で俯瞰でき
持続可能な発展を支える技術者・研究者を育成する

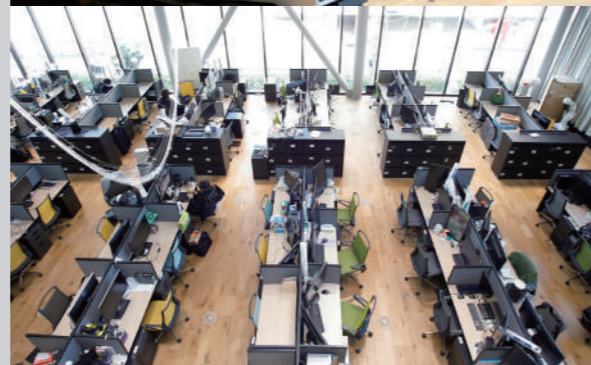
情報学研究科の特長

情報学専攻

社会実装を視野に入れた先端研究と実践的教育によって
情報学の高度な専門性と倫理観を育成します

情報学研究科の基礎となる情報学部では、情報学分野において特に秀でた能力や経験を有する者を受け入れる総合型選抜、学部独自の留学プログラムKDIX.global、学生の自主的な発想を支援するKDIX.Lab、企業の参画する社会情報学実習、柔軟で深い学びのためのメディア授業の積極的な活用など、学生の多彩な才能を引き出すための独自の取り組みを実施しています。

情報学研究科では、情報学部での取り組みを高度に発展させるとともに、このような経験を経て高いレベルでの技術力・国際性・自律性を持った学生を受け入れ、学部における「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の各コースにおいて学修した専門知識や技能をより深化させます。さらに、自らの専門とは異なる分野の基礎知識を学ぶ機会を設け、専門分野にとらわれず、幅広い技術分野に対する知見を得られるようにします。また、担当教員が個別に指導する研究活動のみならず、社会情報学実習への参加を通じて、問題解決力、批判的思考力、創造的思考力、倫理的行動力も涵養されることを目指します。研究面では、情報学研究科と関係の深い情報学研究所と連携し、実学教育の理念のもと、情報学分野における最先端技術の創出に加え、情報技術の社会実装や課題解決法の提起などを行います。



情報学研究科における
SDGs達成に向けた
取組み

Graduate School
of Informatics

研究科長メッセージ

未来の社会を構築できる人材を育成します

今日、情報技術をベースとする各種サービスはライフラインの一つとなっております。人口減少が続く中でより豊かなSociety 5.0社会を構築するには、様々な視点から俯瞰や、的確な課題設定、そしてより良い方向へ導く能力を身に付けた人材が必要となります。このような人材育成のため、情報学研究科ではセキュリティ技術やAI技術の理解とともに、それらを実世界へ展開することを学修します。本研究科は近畿大学情報学研究所や同大学情報学部との三位一体の運用

を行うことで、幅広い情報学分野における高度な研究基盤を皆さんに提供することができます。学修とともに情報学の最先端分野の課題を自ら設定し、様々な制約を考慮しながら高度な技術的視点からの解決へ導く経験は、卓越した技術者や研究者となる近道となるはずですが、2026年度の修士課程設置に続き、2028年度には博士後期課程を開設する計画であり、段階的な研究体制の整備を目指します。

研究科長 佐野 到 教授

● 情報学研究科の教育理念

情報学専攻

国が掲げる「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」を実現するために、高度で広範な専門知識と倫理観に基づき、自ら考え行動することで、新たな知見や価値を生み出すことができる技術者や研究者を養成します。そのために、幅広い課題に対処できる高い情報収集・分析能力、課題に対する問題解決能力、専門知識に基づいて自らの思考を説明し妥当性を議論できる論理的かつ批判的思考力、グローバルな情報発信能力の修得を目指します。

● 授与する学位

修士(工学)

● 進路イメージ

ソフトウェア・ネットワーク・セキュリティ等のIT業界だけでなく、メーカー、サービス業、官公庁等ICT技術を活用する様々な業種での活躍が見込まれます。

● 研究分野

知能システム分野

- ◎機械学習
- ◎自然言語処理
- ◎コンピュータビジョン など

サイバーセキュリティ分野

- ◎情報ネットワーク
- ◎情報セキュリティ
- ◎情報処理基盤 など

実世界コンピューティング分野

- ◎ヒューマンインタフェース及びインタラクション
- ◎エンターテインメントコンピューティング
- ◎サービスコンピューティング など



教員からのメッセージ

イノベーションには
欠かせない情報に関わる
知見や技能を修得し
キャリアの可能性を広げよう

情報学研究科 情報学専攻
専攻長
谷口 義明 教授



本研究科は、総合理工学研究科エレクトロニクス系工学専攻の教育研究を継承しつつ、情報学部独自の取り組みをさらに発展させた高度な教育を実施します。情報学研究所とも連携し、学内外の機関と協力しながら最先端の研究を進めていきます。また、情報学に関する幅広い研究を行う教員が在籍するため、多様な視点から院生の研究へのアドバイスが可能です。ぜひ情報学研究科で実力をつけ、実績を積み重ね、将来のキャリアを大きく飛躍させてください。



在学生からのメッセージ

バイオ×情報で
医療分野の課題に挑み
自身の可能性を広げる

情報学研究科 情報学専攻1年



研究室訪問をきっかけに、遺伝子分野と情報学を融合させたバイオインフォマティクス研究に強く惹かれ、大学院進学を決意。現在は、医療分野における診断推論システムや書類作成の自動化に取り組んでいます。学部生時代と同じ環境で研究を深化させられる点が魅力的で、自ら主体的に課題を遂行する力が身についたと実感しています。将来はSIer企業でシステムエンジニアとして働くことを視野に、研究や学内プロジェクトを通じて可能性を広げています。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和8年度)のものです。

情報学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/informatics/about/graduate/>

薬学研究科

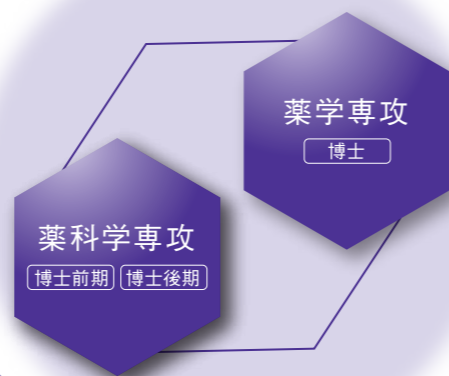
- 博士前期課程
- 博士後期課程
- 博士課程



生命、医療に対する高い専門性と倫理観を持つ人材を育成します

薬学研究科では、薬学に関する独創的な研究を行い、卓越した洞察力と問題解決能力によって将来多様な薬学領域において指導的立場で活躍できる人材、人類の福祉と健康に貢献できる人材の育成をめざします。

幅広い薬学分野の教育研究を行う
2つの専攻

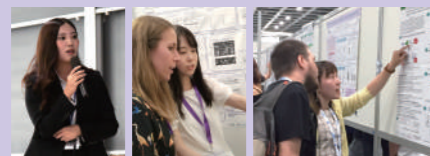


薬学研究科の特長

薬科学専攻

創薬・生命科学研究の最先端を担う人材を育成

薬科学専攻では、創薬または生命薬学に関する研究を行い、研究成果を国内外で開催される学会で積極的に発表し、国際的な学術雑誌に原著論文として公表しています。学会発表では、これまでに多数の大学院生の発表内容が高く評価され、表彰されています。国際学会で発表を行う場合には、研究室の指導教員によるサポートに加え、薬学研究科に所属する専任の英語教員が、英語での発表や質疑応答に関するアドバイスを行っています。



薬学専攻

臨床薬学における指導的立場の人材を育成!

臨床薬学コース連携大学院方式では、優れた臨床能力を有する薬剤師を養成するとともに将来の臨床薬学研究的指導的役割を担うことのできる研究者の養成を目的に6つの医療施設と連携しています。



薬学研究科における
SDGs達成に向けた
取り組み

Graduate School
of Pharmacy

研究科長メッセージ

指導的立場で活躍し、薬学的観点から生命科学の進歩に貢献しうる人材の育成を

近年の新型コロナ禍で、PCR検査や核酸ワクチンなど研究や医療分野での専門用語が身近なものとなり、薬学研究への関心が高まっています。そして、社会はiPS細胞やゲノム編集をはじめとする最先端の研究がスムーズに医療へと還元されることを待ち望んでいます。医療薬学科(6年制)を基盤とする「薬学専攻」では、薬剤師として医療に従事するだけでなく、研究者としての観点から新しい医薬品の研究や臨床開発、行政等幅広い分野で活躍するファーマシスト・サイエンティストの輩出を念頭に置いています。さらに、臨床薬学研究の実績を有する複数の医療施設と連携し、臨床能力および識見の向上や高度

な医療人の養成を試み、様々な分野の臨床研究に従事することのできる薬剤師を育成します。創薬科学科(4年制)を基盤とする「薬科学専攻」では、薬学的観点から生命科学の進歩に貢献しうる人材を育成し、将来大学や公的機関などアカデミアでは最先端の創薬研究を展開し、企業の研究者としては臨床開発の最前線に立てる人材の輩出を目指します。大学院生はアカデミアにおける研究の主力であり、Deep Techを醸成する担い手です。指導者と成果をあげる喜びを分かち合い、時にはお互いの意見をぶつけ合いながら、サイエンスをエンジョイしていただけたらと願っています。

研究科長 藤原 俊伸 教授

● 薬学研究科の教育理念

・薬学専攻

人の生命に直結する医薬品の創製・開発に携わり、あるいは医療の現場で薬を扱う立場に立つことから、高度な研究能力と創造性に加えて、幅広い教養とともに、生命医療に対する高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えた社会に信頼される人材を養成します。

・薬科学専攻

創薬科学および生命薬科学とその関連領域における優れた研究能力の育成に努め、医薬品の創製・開発や安全性の向上、あるいは薬学的観点から生命科学の進歩に貢献しうる人材を育成することに重点をおいています。また、将来、人の生命に直結する分野に携わるために必要とされる、高度な倫理観と豊かな人間性を備えた社会に信頼される人を輩出することに大きな力を注ぎます。

● 授与する学位

●薬学専攻

博士課程 / 博士(薬学)

●薬科学専攻

博士前期課程 / 修士(薬科学)

博士後期課程 / 博士(薬科学)

● 進路イメージ

薬学専攻

大学病院、国公立の地域基幹病院などで臨床研究を行う薬剤師、製薬企業における臨床開発・研究職や公的研究機関の研究員など。

薬科学専攻

製薬企業の研究・開発職や品質管理、医薬品情報担当者、化学あるいは食品関連企業などの研究者や技術者、公的研究所従事者など。

● 研究分野例

- ◎創薬分子設計学
- ◎天然活性物質学
- ◎病態分子解析学
- ◎分子細胞生物学
- ◎薬物治療学
- ◎医薬品情報学
- ◎医薬品化学
- ◎生命有機化学
- ◎生化学
- ◎機能製剤設計学
- ◎薬物動態解析学
- ◎個別化薬物療法学
- ◎薬用資源学
- ◎薬品分析学
- ◎化学療法学
- ◎病態薬理学
- ◎公衆衛生学
- ◎社会薬学 など

在学生からのメッセージ

遺伝子発現制御を理解し
がんや遺伝性疾患の
分子メカニズムに迫る



薬学専攻
博士課程 3年

タンパク質を作るための設計図として使われる遺伝子ですが、細胞の状態や外部の環境に応じて必要なものだけが働くよう調整されています。この遺伝子発現制御の仕組みを解析し、がんや遺伝性疾患における遺伝子発現の異常を正確に捉え、より効果的な治療法開発に貢献したいです。

レオウイルスで
抗腫瘍免疫を解明し、
がん治療薬の開発へ



薬科学専攻
博士前期課程 1年

腫瘍細胞を選択的に攻撃して死滅させるレオウイルスを用い、抗腫瘍免疫が活性化される仕組みの解明に取り組んでいます。本研究を通じて、がん治療効果の向上とレオウイルス製剤の臨床開発につながる新たな知見を着実に示したいです。卒業後は培った専門知識を生かし、製薬企業でがん治療薬の開発に携わりたいと考えています。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

薬学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/about/graduate/>

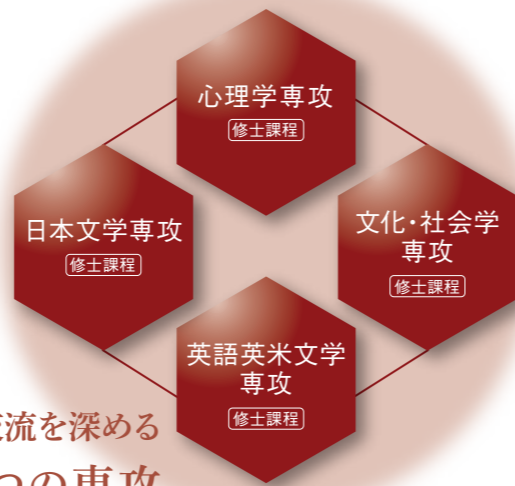
総合文化研究科 □ 修士課程



諸科学を総合する新たな「知」の創出を図り社会変動に呼応した学問・研究と向き合います

日本文学専攻、英語英米文学専攻、文化・社会学専攻、心理学専攻の4専攻を設置。専攻ジャンルを追究すると同時に、境界を超えて他ジャンルとの交差・交流を深めることによって、専門の閉鎖性を排し、巨視的な視座に立って現代の先鋭的な諸学との交流・総合を図ります。

境界を超えて他ジャンルとの交差・交流を深める 4つの専攻



総合文化研究科の特長

日本文学専攻

■言語・文学コース

日本語と日本文学に関わるさまざまな言語状況の専門的な研究、作家や作品の時代背景を調査して新たな意味づけを発見すること、斬新なテキスト読解、日本語の理論的考察や社会的役割の解明などを多岐の領域で行っています。

■創作・批評コース

近代文学の創作技法の分析、思想・批評の理念およびイデオロギーの解明を世界的視野に立って研究し、文学、思想、歴史、文化、経済などさまざまなジャンルを横断して新たな知の創出に力を入れています。

英語英米文学専攻

英語文化圏の詩や小説、その他の文学作品を分析・解釈し、研究する過程においてあらゆる文学的真実を探ります。また、文学研究以外にも、教育者をめざす人のために英語教育・応用言語学分野の教育・研究環境も充実しています。成果として作成される修士論文は、研究者としての第一歩となるものです。課程修了後は、通常の就職先だけでなく、高校の教員、さらに博士課程のある他大学に進学し、大学教員となる道も開かれています。

文化・社会学専攻

■歴史学コース

文献史料、テキスト解読、地域調査等を通じて、時間的には原始・古代から近現代まで、空間的には日本から世界各地にわたる歴史や文化の研究とその応用をめざします。歴史学、考古学、民俗学の方法論を自在に活用し、人間の営みについて大きな視野で考えていきます。

■社会学コース

グローバルに展開し、複雑化する現代社会を理論と実践のバランスのとれた総合的な研究を通じて的確に理解することをめざします。その基礎の上に現代社会が直面する社会問題に取り組み、あるべき社会の姿を考えていきます。

■現代文化学コース

現代の多様な文化現象を複眼的な視点から読み解く能力の育成をめざし、複雑な現代社会をアクティブに生き抜く方法を研究します。哲学、美学、倫理学、ジェンダー論、メディア論、芸術論などを横断しながら、既存の学問分野に収まらない領域を探究することができます。

■都市学コース

都市問題や地域問題を対象に、その解決に向けて実践的な研究を行います。都市社会学・都市地理学・都市計画学・環境政策学などを用いた学際的アプローチによって、まちづくり、地域活性化、観光、環境問題など都市・地域をとりまく現代的課題を探究します。

心理学専攻

■心理学コース

人間の心的活動や行動のメカニズムについて、理論的、実証的に究明します。そしてさまざまな環境や社会的場面における心理学的諸問題の解決法を探り、生活や生きがいの充実を考えます。

■臨床心理学コース

心理学の基礎知識を前提にして、教育、医療、福祉、産業などの領域における心理臨床的な実践方法を学び、実証的な研究を行います。そして実習を通して援助技法、査定技法を習得するとともに高い倫理観を持った専門家を育成します。



総合文化研究科における
SDGs達成に向けた
取り組み

Graduate School
of Interdisciplinary Human Studies

研究科長メッセージ

豊かな創造力を持つ専門家の育成

総合文化研究科は、文芸学部と総合社会学部の上に立つ大学院として、2014年度に発足しました。日本文学専攻、英語英米文学専攻、文化・社会学専攻、心理学専攻から構成され、言語、文学、芸術、文化、歴史、社会、心理など人間の営みに関わる多方面の教育・研究を行っています。それぞれの分野で用いられている研究手法も様々

です。その多様性は、各専攻の院生が提出する修士論文のテーマに反映されています。本研究科では、それぞれの専門分野の知識や技能を修得し研究能力を有する専門家、境界を超えて他ジャンルと交差・交流するなかで柔軟で幅広い教養と豊かな創造力をもった人材育成をめざしています。

研究科長 松本 行真 教授

● 授与する学位

●日本文学専攻 ●英語英米文学専攻
修士課程／修士(文学)

●文化・社会学専攻
(歴史学コース・現代文化学コース)
修士課程／修士(文化学)

●文化・社会学専攻
(社会学コース・都市学コース)
修士課程／修士(社会学)

●心理学専攻
修士課程／修士(心理学)

● 総合文化研究科の教育理念

総合文化研究科は、言語、文学、芸術、文化、歴史、社会、心理など、人間の営みに関する多様な学問領域の交差・交流を通して、複眼的な視点から21世紀の現実に向き合うための新たな「知」のパラダイムを創出する場です。各専攻・コースにおける専門知識に加えて、諸領域の先端分野を横断できる柔軟で幅広い教養と、多面的な人間理解に基づく社会的実践力を修得し、総合的な思考力と判断力を持って国際社会や地域社会で指導的な役割を果たそうとする多彩な人材を養成することをめざします。

● 進路イメージ

主に想定されるのは、研究者や大学教員(博士課程への進学)、中学・高校の教員、博物館・美術館の学芸員、作家や評論家、ジャーナリスト、地方自治体の特別調査員、都市計画コンサルタント、NGOやNPOの職員、公認心理師、臨床心理士などです。

● 研究テーマ例

日本文学専攻

- ◎古典研究
- ◎近現代文学研究
- ◎日本語研究
- ◎創作・批評研究

英語英米文学専攻

- ◎イギリス文学研究
- ◎アメリカ文学研究
- ◎英語教育・応用言語研究

文化・社会学専攻

- ◎考古学研究
- ◎歴史学研究
- ◎社会学研究
- ◎民俗学研究
- ◎現代文化研究
- ◎都市学研究

心理学専攻

- ◎心理学研究
- ◎臨床心理学研究

など

在學生からのメッセージ

“不寛容への意義”を唱える渡辺一夫のユマニズムを論考

日本文学専攻
修士課程 2年

渡辺一夫の著作物や関連する批評文、エッセイから彼の「ユマニズム」を論考しています。彼の主張は、AIの発達により機械化(無意識化)が進む人間の思考と、不寛容に順応しつつある私たちに警鐘を鳴らしてくれると考えています。



岸和田の城下町の発展をヒントに近代都市化を研究

文化・社会学専攻
修士課程 2年

岸和田における城下町の近代都市化に関する研究を進めています。明治に入り社会が近代化していくなかで、どのように発展を遂げてきたのかを明らかにしていきます。卒業後は、まちづくりなどを通して地域の課題解決に貢献したいです。



野球文学から読み解く、アメリカ文化の光と影

英語英米文学専攻
修士課程 1年

黒人・白人文化が描かれた野球小説を手がかりに、人種差別的構造と歴史的な文脈を考察しています。現代社会とのつながりも探りつつ、文化の明暗を丁寧に読み解きます。修了後は異文化理解の視点と英語力を生かして活躍したいです。



選手の心に寄り添う、スポーツ心理の専門家へ

心理学専攻
修士課程 1年

子どものスポーツ活動を対象に、親の期待やアスリートの性格特性、メンタルヘルスが及ぼす影響を研究しています。将来は、学校や企業、スポーツ現場で心の支援に携わる心理士として貢献したいです。



*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

総合文化研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/lit-art-cul/about/graduate/>

農学研究科

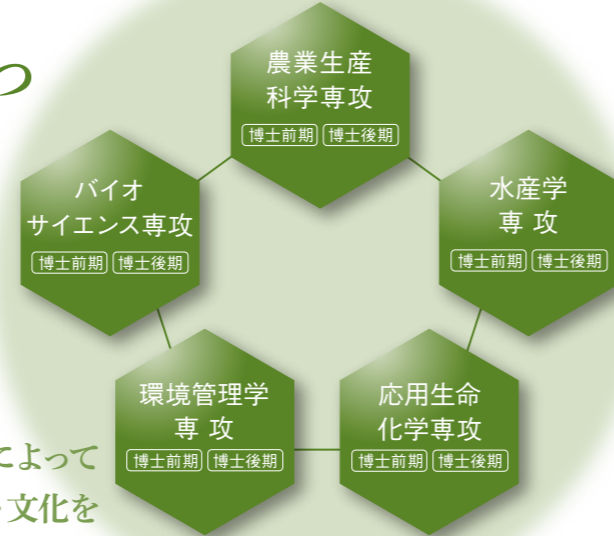
- 博士前期課程
- 博士後期課程



深い学識と高度な科学技術を持つ 目的志向型研究者を育成します

農学研究科では、農業、生命(生物)、環境、食料、健康(医療)の各分野を生物学、化学、物理学、バイオテクノロジーを基盤に、生物の生態、生理、成長、生殖、分化、遺伝などの諸現象を個体、器官、細胞、分子(遺伝子)レベルで解明し、応用するための教育と研究を行っています。

人に密接する領域研究によって
豊かな生活・文化を
創出する5つの専攻



農学研究科の特長

食料・環境・健康と密接に関連した分野の
教育・研究に重点を置いています

水産学専攻

大規模な養殖研究施設を主要な研究フィールドとして、「生け簀から食卓まで」をカバーする実践的研究者・技術者を養成しています。



環境管理学専攻

生態学を共通基礎とし、化学的、生物学的、物理学的、水文学的、社会的、データサイエンス的な知識と手法で、環境に関わる専門知識の修得と課題解決能力の育成をめざします。



農業生産科学専攻

農業生産科学専攻では、農業生物資源の安定供給を目的とし、新規生産技術の研究開発に向けた教育をめざします。



応用生命化学専攻

生命、資源、環境、食品をキーワードに、種々の生物を対象として、遺伝子・タンパク質や細胞レベルでその構造や機能を解析し、環境浄化、疾病予防、食品・医薬品・有用資源の開発へ利用する研究を行っています。



バイオサイエンス専攻

生体機能科学・分子機能化学分野からなり、食料、医療、創薬、エネルギーなど、人類が直面する問題の解決に向けた先端的なバイオサイエンス教育・研究を実践します。



農学研究科における
SDGs達成に向けた
取組み

Graduate School
of Agriculture

研究科長メッセージ

発想力、行動力で未来の農林水産業を支える人材の育成をめざす

農学研究科は、農業生産科学、水産学、応用生命化学、環境管理学、バイオサイエンスの5つの専攻から構成され、食料、環境、健康、エネルギーの4つの柱に関わる最先端の基礎研究と応用研究を展開しています。

す。イノベーションの種を見つけ出し、社会に貢献できる研究者・技術者を育成することが我々の責務です。

研究科長 細川 宗孝 教授

● 農学研究科の教育理念

農学研究科は、人類の健全な生存のための衣食住と地球環境の確保および質的向上をめざして、農林水産資源の生産、開発、保全、有効利用および環境の修復と保全など「人類と自然の関係」を研究対象とする総合科学分野です。この目的のために、地球環境(空気、水、土)、生物(人類、動植物、微生物)、食料、医療に関する深い学識と高度な科学技術と創造性を身に付けた、目的志向型研究者の養成を教育理念としています。

● 授与する学位

博士前期課程／修士(農学) 博士後期課程／博士(農学)

● 進路イメージ

博士前期課程、博士後期課程を通して卒業後の進路は多岐にわたり、一般企業、公務員、独立行政法人、大学・高校など、各分野の第一線で研究者、技術者、教育者として活躍しています。

● 専攻分野例

農業生産科学専攻

- ◎ 作物学
- ◎ 育種学
- ◎ 園芸植物学
- ◎ 花卉園芸学
- ◎ 植物感染制御工学
- ◎ 昆虫学
- ◎ 農業経営経済学

水産学専攻

- ◎ 水産増殖学
- ◎ 水産生物学
- ◎ 漁業生産システム
- ◎ 水族環境学
- ◎ 水産利用学

応用生命化学専攻

- ◎ 応用微生物学
- ◎ 食品微生物工学
- ◎ 応用細胞生物学
- ◎ 生物制御化学
- ◎ 生命資源化学
- ◎ 森林生物化学
- ◎ 食品機能学

環境管理学専攻

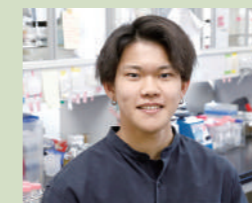
- ◎ 水圏生態学
- ◎ 生態系管理学
- ◎ 環境化学
- ◎ 自然資源管理学
- ◎ 環境政策学

バイオサイエンス専攻

- ◎ 生体機能科学
- ◎ 分子機能化学

在学生からのメッセージ

植物の免疫機構を解き、
農薬に依存しない
改良品種の開発へ



バイオサイエンス専攻
博士前期課程 1年

「イネ白葉枯病菌エフェクターXopPによるPUB44の機能阻害メカニズムの解析」をテーマに、病原菌が植物免疫を抑え込む仕組みを研究しています。ミクロな反応がデータとして可視化される瞬間に魅力を感じます。本研究で植物の弱点を分子レベルで特定できれば、農薬に依存しない強靱な改良品種の開発につながります。将来は多角的な視点で未解明の機構を解明し、社会に貢献できる研究者をめざします。

mRNA代謝の
制御機構を解き、
がん治療に貢献したい



応用生命化学専攻
博士後期課程 1年

mRNA代謝を制御する分子機構の探索に取り組んでいます。タンパク質合成の鋳型となるmRNAが、細胞内で安定化する仕組みや分解へと導かれる仕組みについて、まだ未解明な点が残されています。まずはmRNA代謝の制御機構を明らかにして、がんなどの疾患に対する新たな創薬標的の提案や治療戦略の創出に貢献したいです。将来は、この研究で培った問題解決力を用いて、未知の生命現象を解き明かし、その成果を社会へ還元する研究者をめざします。

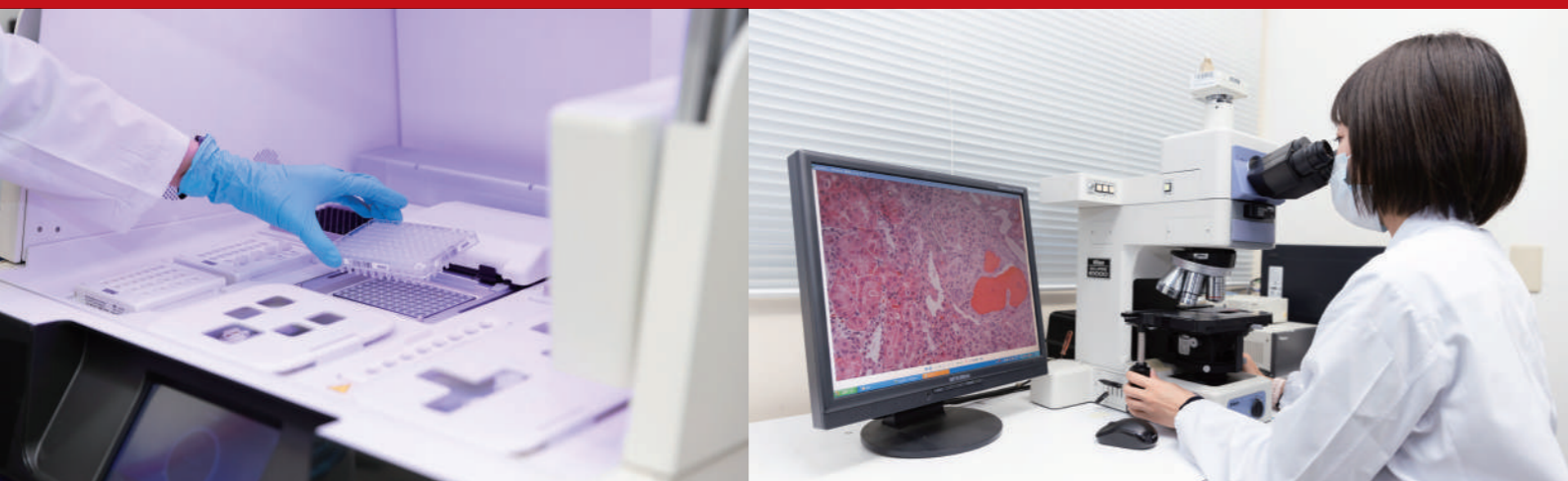
*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

農学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/agriculture/about/graduate/>

医学研究科

□ 博士課程



基礎研究者と臨床研究医の養成によって 健やかな生命の営みに貢献します

医学研究科では、専攻分野に関する確かな学識に裏付けされた研究活動を自立して行い、さらに新鮮な着想と独創性のある重要な研究課題に積極的に取り組むことができる医学系研究者の育成をめざします。

独創的で、実用的な研究活動を自立して行う
研究者および高度医療人を育成する

医学系専攻
博士課程

医学研究科の特長

カリキュラムの特色

一般コースでは、社会人入学者にも受講可能な時間帯に共通必修講義・演習カリキュラムを新設。このコースでは研究倫理、個人情報保護と知的財産、研究立案、情報検索、実験検証、統計分析、論文執筆、論文発表など、すべての研究者にとって基本的な知識となる11教科が系統的に教育されます。また、各専攻分野が技術の解説と実地訓練を行うコースを設定し、大学院生が専攻分野に関わらず、自らの研究に必要な、あるいは興味のあるコースを選択し、受講できます。

施設・設備の特色

医学部共同研究施設には最先端の研究機器が備えられ、研究所所属の職員による行き届いた維持管理や技術補助により、方法論の制限を受けることなく、自らの研究に最新の手技を取り入れることができます。P3Aレベルまでの遺伝子組換え動物飼育室や感染実験室が備えられ、医学研究科に不可欠な動物実験を最良の環境で行い、成果を世界に発表することが可能です。また学内の情報ネットワークシステムが充実しており、インターネットを通じた情報検索が自由に行えるばかりでなく、医学図書館では大多数の医学雑誌についてオンライン講読契約を行っており、自らの研究室から学術雑誌やデータベースを不自由なく参照することが可能です。



医学研究科における
SDGs達成に向けた
取り組み

Graduate School
of Medical Sciences

研究科長メッセージ

あらゆる好奇心に応える自由な研究環境を提供します

医学研究科は、確かな学識と倫理的正当性に裏付けされた研究活動を自立して行うだけでなく、自らの医療実践の中に課題を求め、その解決によって医療をさらに発展させる高度医療人の育成を目的としています。医学研究は人の体や健康、病気について調べるものであり、あらゆる人々にとって動機付けしやすい身近な研究分野の一つです。本研究科は基礎医学系専攻分野13と臨床医学系専攻分野30の計44にも細分化された専門性を有しており、あらゆる医学的好奇心に対応できる体制を整

えています。入学者は広い学識を獲得するため、また研究をさらに深化させるため、本研究科が誇る豊富な人的資源を分野横断的に最大限に活用してください。本研究科では、医師やコメディカルの方は勿論、さまざまな専門性の方にぜひ医学研究を行っていただきたいと考え、協調できる場を提供しています。皆さんの知的好奇心が自由に躍動することで医学研究に新たな地平がもたらされることを期待しています。

研究科長 伊藤 彰彦 教授

● 医学研究科の教育理念

・基礎医学系分野
「特定の研究分野についての深い研究を自立して行いうる研究者の養成」を目標に、研究者に求められる医学・生命科学の遂行に必要な基本的知識・技術などを修得します。

・臨床医学系分野
「高度な専門性を必要とする業務に必要な能力と研究マインドを涵養すること」を目標に、臨床医師として必須の、病態に対するチャレンジ精神の涵養と治療理念の確立をめざします。

● 授与する学位

博士課程 / 博士(医学)

● 進路イメージ

大学の教員など研究者として、医療機関での臨床医として、また企業での研究者あるいは指導者として活躍することができます。

● 研究分野

基礎医学系分野

- 神経構造機能学
- システム脳科学
- 分子生体制御学
- 細胞病態制御学
- 薬理学
- 分子病理学
- 神経ウイルス学・免疫学
- 免疫応答制御学
- 予防医学・行動科学
- 疫学・健康科学
- 法医学
- 分子腫瘍病態学
- 医学物理学

臨床医学系分野

- 循環器内科学
- 内分泌代謝病態制御学
- 消化器病態制御学
- 血液・免疫・膠原病 / 機能制御学
- 神経病態制御学
- 腫瘍病態制御学
- 呼吸器・アレルギー病態制御学
- 腎臓病態制御学
- 精神病態医学
- 発達小児医学
- 環境皮膚病態学

- 放射線腫瘍学
- 放射線診断・画像応用治療学
- 臨床検査医学
- 臓器病態制御外科学I
- 臓器病態制御外科学II
- 臓器病態制御外科学III
- 臓器病態制御外科学IV
- 神経機能制御外科学
- 心血管機能制御外科学
- 運動器機能病態制御学
- リハビリテーション医学

- 形成・再建外科学
- 腎泌尿器外科学
- 視覚科学
- 感覚器頭頸部外科制御学
- 女性機能病態・周産期医学
- 麻酔・疼痛制御・集中治療学
- 救急医学
- 緩和医療学

など

在学生からのメッセージ

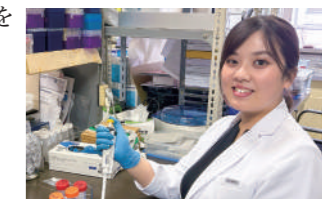
既存薬の可能性を開き
多発性硬化症に挑む
次世代治療戦略へ



神経ウイルス学・免疫学専攻
博士課程 1年

多発性硬化症の動物モデルを用い、乳がん治療薬タモキシフェンに潜む免疫調整作用を検証しています。既存薬の新たな効用を解明して治療戦略へつなげ、開発コストを抑えつつ安全な治療法を早期に届ける可能性を広げたいです。将来は神経免疫疾患に有効な治療薬の開発を通じて社会に貢献したいです。

新しい骨形成因子の研究を
進め、骨粗鬆症の治療薬
開発につなげたい



分子生体制御学専攻
博士課程 3年

臨床研修医の期間中に顎骨の侵襲を伴う処置を多く経験し、骨組織の再生や修復に興味を持ちました。現在は新しい骨形成因子が骨代謝調節においてどのような役割を果たしているのかを研究しています。その成果により骨粗鬆症の治療薬開発の基礎的な知見が得られ、健康寿命の延伸につながる新しい治療法の提案ができるはずです。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

医学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/medicine/about/graduate/>

生物理工学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程



生物系と理工系の科学・技術を融合し、 現代社会の課題を解決できる 研究者・技術者を育成します

生命現象や生物・生体の優れた機能と仕組みを解明し、医療、医用・福祉機器、コンピュータ技術などに応用することで、生物系と理工系の科学・技術を融合した新しい学際的研究分野を拓き、人類社会の持続的発展に貢献できる研究者・技術者を育成します。21世紀COEプログラムや大学院GPに採択されるなど、研究レベルの高さは世界トップクラスです。

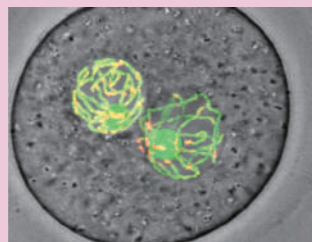
生物系と理工系を融合した 学際的研究を展開する2つの専攻



生物理工学研究科の特長

生物工学専攻

生命現象や生物の機能の解明をめざす基礎的研究と、得られた知見の工学的応用をめざす戦略的研究を行っています。学部で展開する生物工学、遺伝子工学、食品安全工学の教育研究を横断的に集約したカリキュラムで、高度な専門知識を備え、国際舞台で活躍できる技術者や研究者の養成に力を入れています。また、社会人入学やリカレント教育を重視したプログラムも充実しています。



生体システム工学専攻

機械・電子・情報通信といった工学分野と医療・福祉工学、健康科学、生活科学といったライフサイエンス分野を横断する「生体システム工学」に関する教育研究を通じて、学際的視野を持ち、超高齢社会に対応した人間生活の質の向上に結びつく科学技術に貢献できる研究者および技術者を育成します。ナノ・機能材料工学、生体医学、情報通信工学、人間生活環境工学、先進計算科学の5分野について幅広い高度専門教育を行います。



修了生 Voice

東京理科大学
薬学部薬学科
助教
米野 雅大さん



在籍時は、腸内善玉菌として知られるビフィズス菌の植物性難消化性多糖分解酵素の性質と、それがビフィズス菌の生育にどのような役割があるのかについて研究しました。植物多糖のなかでもアラビノースを含むオリゴ糖あるいは多糖が、腸内善玉菌として知られるビフィズス菌に適した炭素源であることはすでに知られていましたが、まだ十分に理解されていなかった分解経路について明らかにしました。現在は多糖の構造と生物機能との関係や分子メカニズムを解明して、食品や医薬品開発に応用することで人々の健康増進に寄与できるよう、研究に取り組んでいます。在籍中に身につけた糖に関する知識や遺伝子解析技術、遺伝子組換えタンパクを扱う技術といった、生化学・分子生物学的な実験手法は、現在の研究でも大いに役立っていると感じています。



生物理工学研究科における
SDGs達成に向けた
取組み

Graduate School
of Biology-Oriented Science
and Technology

研究科長メッセージ

環境・社会の持続的発展に貢献する生物理工学研究を通じた実学教育

生物理工学研究科は、「食糧」、「人間生活の環境」、「医療・福祉」などに関する現代社会の問題解決へつながる研究活動を通して、教養と良識に裏付けられた深い洞察力・創造力を持つ人材の育成が目標です。これまで行ってきた21世紀COEプログラム、大学院GPを進展させ、理学・農学・工学・医学の伝統的な科学・技術に立脚した高度最先端技術の開発をめざします。本研究科の皆さんには、既存知識を実学の一環として修得し、環境・社会の持続的発展に貢献すること、幅広い学識と倫理観を高いレベルで併せ持つ研究者・高度専門技術者としての資質を身につけることを、大いに期待しています。

研究科長 西川 博昭 教授

● 生物理工学研究科の教育理念

生物理工学研究科は、高度最先端技術の開発をめざして、理学・農学・工学・医学の伝統的な科学・技術に裏打ちされ、生物系と理工系が融合した新しい学際的研究分野を開拓します。これを実現する過程では、将来にわたって人類の福祉と環境・社会の持続的発展に貢献する洞察力と想像力を涵養する実学教育、および高い倫理観と自主独往の精神を備えるための人格の陶冶を目標とし、これらを高いレベルで兼ね備えた研究者・高度専門技術者を育成します。

● 授与する学位

博士前期課程／修士(工学) 博士後期課程／博士(工学)

● 進路イメージ

生物工学専攻は、食品関連や化学工業および医療関連企業・薬品関連・バイオ関連の高度技術者・研究者として活躍することが期待されます。生体システム工学専攻では、機械・電気電子・情報通信系企業に加えて、バイオ情報・医療関連企業、医療機器・福祉介護機器・住宅設備などのメーカー、医療機関において、高度技術者・研究者として活躍することが期待されます。

● 研究分野例

生物工学専攻

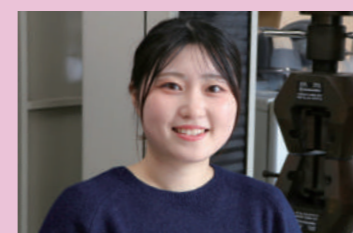
- 動物分子生命工学
- 植物分子生命工学
- 生体機能分子工学
- 生殖再生生命工学
- 生命環境工学
- 食品生命工学

生体システム工学専攻

- ナノ・機能材料工学
- 情報通信工学
- 先進計算科学
- 生体医学
- 人間生活環境工学

在学生からのメッセージ

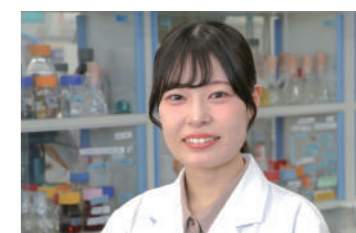
ハイブリッド梁構造の研究を通じて
低炭素社会を支える技術者へ



生体システム工学専攻
博士前期課程 1年

炭素繊維強化プラスチックとグリーンコンポジットを組み合わせたハイブリッド梁構造の曲げ特性の向上に取り組んでいます。実験結果と数値解析結果の一致を図るモデルを構築する中で、論理的に考え抜く力と緻密に検証する力が磨かれました。修了後は、ものづくりメーカーで環境配慮型の製品や技術の開発に携わり、社会に貢献したいです。

ゼニゴケ精子の運動制御を解明し
生殖の仕組みに迫る



生物工学専攻
博士後期課程 2年

「ゼニゴケの精子走行性関連遺伝子の機能解析」をテーマに、精子が卵へ誘引される過程に必要な因子を探索しています。二本鞭毛をもつ精子の複雑な運動を対象とするため困難も多い一方、制御機構を解明することで、精子走行性一般の理解を深め、不妊の理解や応用にもつながる可能性があると考えています。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

● 生物理工学研究科 博士後期課程

生物理工学研究科博士後期課程では、これまで69名に博士(工学)の学位を授与しています。平成28年4月から、生物工学専攻および生体システム工学専攻の2専攻として新たに生まれ変わり、今後、最先端

野でのさらなる研究実績や、専門的な研究者・技術者の育成に期待が寄せられています。

生物理工学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/bost/about/graduate/>

システム工学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程



人間・環境・モノが調和・協調するシステムを 提言できる研究者・技術者を育成します

システム工学研究科では、持続可能な社会を築くための技術開発に貢献する研究者や高度専門職業人としての技術者をめざす人材を求めています。科学技術はますます高度化・細分化される方向にあるものの、本研究科の教育課程では専門分野の高度な知識と技術を獲得するだけでなく、専門領域を含んだ総合的な科学技術の知識の獲得をはかるカリキュラムを設定しています。具体的には、学部での学科構成に対応した6コース制に分かれた専門科目群や共通科目、分野横断科目での学びをとおして、総合的な能力を身につける教育・研究の指導を行います。

人間の生活を豊かにしウェルビーイングを高める
さまざまな製品の開発や生産技術にアプローチ

システム工学
専攻

博士前期 博士後期

システム工学研究科の特長

化学生命工学コース

生物学と化学が融合する分野横断的な領域において、システムの思考によるアプローチにより、「人と自然との調和・共生」の実現をめざします。

機械工学コース

材料加工分野、エネルギー分野、計測制御分野を柱とした教育・研究の実践により、次世代の機械システムを開発できる技術者を育成します。

ロボティクスコース

機械と情報を融合した機械システム分野の研究を進めることにより、ロボティクス分野に関連する高度な技術と幅広い知識を有する、創造性豊かな技術者を育成します。

電子情報工学コース

電子工学、情報工学、計測制御工学を技術横断的に融合した分野の研究・教育を行い、システムの設計・構築・運用に必要な柔軟性とバランス感覚を持った技術者を育成します。

情報コース

「情報数理」と「情報メディア」を柱とした教育・研究を幅広く展開し、高度情報化社会の要請に対応できるエキスパートを育成します。

建築コース

建築設計や生産技術の研究を基本に、社会的な領域である都市・地域計画なども含めた視点から、人・地域・環境に貢献できる研究を行います。

地域連携による研究活動と人材育成

地域連携による未来を創る多彩な分野の研究を推進し、
様々な課題の解決に貢献

広島県は大手自動車メーカーを中心に、多くの関連企業が裾野産業となっている自動車産業の盛んなものづくり地域です。近畿大学広島キャンパス(工学部/システム工学研究科)では自動車産業の集積地という特徴を生かして、地域企業や公設機関など内外の研究者と連携し、その要の研究拠点として「次世代基盤技術研究所」が設立されました。現在では産学官連携の窓口となる「社会連携センター」と、研究を推進する7つの研究センターを設置し、先端ロボット技術を活用

した医工連携分野での実用化研究や、金属材料加工技術の開発などの多岐に渡る研究が実施されています。これらの広範な研究を通じて、地域の活性化の貢献をめざしているほか、グローバルに活躍できる高度人材育成にも取り組んでいます。また、広島大学大学院先進理工系科学研究科の間では学生交流協定を、国立研究開発法人産業技術総合研究所とは連携大学院協定を締結し、先端技術の開発を担う人材をともに育成することをめざしています。

■ ドライビングシミュレーター

自動車など、さまざまな乗り物の快適性や安全性に関する研究開発を行うため、全身振動や加速度の測定を行う装置です。



システム工学研究科における
SDGs達成に向けた
取組み

Graduate School
of Systems Engineering

研究科長メッセージ

高度な専門知識と合理的判断力を身に付けて、自分の好きな分野を極め、そしてなりたい自分に

システム工学研究科は、専門領域の壁にとらわれることなく幅広い学問分野を横断的に学べるように、専攻をシステム工学専攻の1つにまとめ、生物化学・機械工学・ロボティクス・電子情報工学・情報・建築の6コースで、幅広い分野の工学的学問領域を包含しています。また、本研究科では、高度専門性・課題解決力・グローバル活動力・

人間性及び課題を俯瞰し解決できる総合力を重視した能力の育成に取り組んでいます。そして、今後もすべての修了生が「進学して本当によかった」「大変だったけど充実していた」と言ってもらえるよう尽力し、生涯にわたって社会に貢献できる人材を輩出していきます。

研究科長 崎野 良比呂 教授

● システム工学研究科の教育理念

研究者や高度専門職業人としての技術者の育成をめざしています。基礎的原理の応用や複雑な現象の解明、さらに既存技術の修得のもと、広い視野に立った工学の解析方法を身に付け、人間と環境が共存できる社会の構築に寄与することを理念としています。特に、実益的な技術との連結を重視しながら、ますます複雑化する技術課題に、多様な解決策を提言できる研究者や技術者の育成をめざします。また基礎工学から、精深な専門技術までを包含する教育・研究を、地球環境との関連性を重視しつつ、幅広く展開します。

● 授与する学位

博士前期課程 / 修士(工学) 博士後期課程 / 博士(工学)

● 進路イメージ

これまでの修了生の高い専門性が社会から高く評価されていることに加え、近畿大学が有する総合力を生かして、全国に広がる就職実績企業や多数の修了生から情報を取得し、実りのある進路を可能にしています。また、行政や公設機関の支援のもと、地域産業との連携強化を図る工学部産学官連携推進協力会も、大学院生の進路実現の一助として機能しています。

● 主な研究内容

化学生命工学コース

- ◎ 極限環境微生物が生産する有用酵素の機能解析と応用
- ◎ 化粧品、医薬品等生理活性物質の開発
- ◎ 情報・物質・エネルギー変換デバイス
- ◎ 環境調和型反応の開発
- ◎ 食品素材などのバイオものづくり研究

機械工学コース

- ◎ 高分子材料の微細成形と材料評価
- ◎ 水素吸蔵特性を有する合金の創製
- ◎ 多価イオン電池の開発
- ◎ 内部流れの抵抗制御とその評価
- ◎ 人体振動の計測および評価

ロボティクスコース

- ◎ 生物模倣や医療福祉支援ロボットに関する研究
- ◎ 日常生活や作業現場で活躍するロボットの研究
- ◎ 自動運転や自動車の運動特性に関する研究
- ◎ 柔軟要素を利用するロボットに関する研究
- ◎ メカトロニクスの基礎技術に関する研究開発

電子情報工学コース

- ◎ 電気エネルギー工学
- ◎ 超伝導センサ非破壊検査
- ◎ レーザープロセッシング技術の研究開発
- ◎ 知的電磁界情報計測
- ◎ 非線形数学の情報処理応用
- ◎ 先進アルゴリズム
- ◎ コンピュータ診断支援システムの研究開発
- ◎ 画像処理からVR・ARまでの応用研究

情報コース

- ◎ AI+最適化ハイブリッドアルゴリズムの研究と産業応用
- ◎ 人工知能(AI)を用いた生産計画とスケジューリング解析
- ◎ 音楽コンテンツの高付加価値化
- ◎ 地域のためのDXデザイン
- ◎ 画像の3次元再構成技術

建築コース

- ◎ 建築・都市空間のデザイン
- ◎ 都市の歴史やまちづくりに関する研究
- ◎ 耐震技術や構造デザインに関する研究
- ◎ 環境に優しい新材料の開発
- ◎ 省エネ・自然エネルギー利用に関する研究

在学生からのメッセージ

温度・光に応答する
スマート材料を創る
電極の可能性を拓く



システム工学専攻
博士前期課程 1年

温度と近赤外光に応答する多刺激応答型電極の開発に取り組んでいます。光熱変換性と高い導電性をもつカーボンナノファイバー(CNF)電極に、刺激応答性高分子のN-イソプロピルアクリルアミド(NIPA)ゲルを修飾して界面機能を付与し、ゲルの膨潤・収縮が電気化学応答に与える影響を検討しています。将来は材料設計と分析技術を生かし、実用化につながるデバイス開発に携わりたいです。

AIと光学で病理を可視化
客観的・定量的な
診断支援へ



システム工学専攻
博士前期課程 1年

ハイバースペクトル画像を用いたKi-67のデジタル染色をテーマに、陰性核と陽性核を高精度に判別する手法を研究しています。従来の物理染色に頼らず、AIと光学特性を組み合わせることで細胞成分を解析し、客観的で定量的な診断支援の実現をめざします。将来は病理学の知見を情報技術に落とし込み、医療現場の効率化をリードする技術の確立に挑みたいです。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

システム工学研究科の詳細はWebでご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/engineering/about/graduate/>

産業理工学研究科

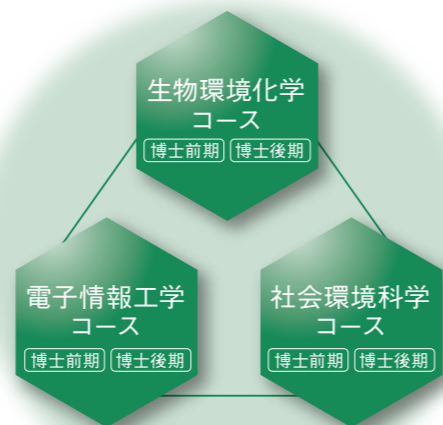
- 博士前期課程
- 博士後期課程



「ハードサイエンス」と「ソフトサイエンス」が融合する 新時代のスペシャリストを育成します

現在までの経済発展を支えてきた、経済効率と合理性を追求する学問・技術としての「工学」は、今まさに過渡期を迎えようとしています。技術における人間的要素と地球全体を視野に入れたグローバルな視点の重視という、これからの時代の要請に応えるため、本研究科では「ハードサイエンスとソフトサイエンスの融合」をキーワードに、新時代に調和する最先端の産業技術について教育・研究を進めています。

未来の社会を創る最先端技術を学ぶ 3つのコース



産業理工学研究科の特長

■ 生物環境化学コース

[Biological and Environmental Chemistry Course]

3つの研究分野から構成されています。材料系では、電池から生体適合性材料まで、最先端の幅広い分野を対象としています。環境系では、環境モニタリング・浄化など環境に関わる分野を生物・化学の視点からアプローチ。生物系では、ゲノム医療・食品工学など、あらゆる角度からライフサイエンスを研究しています。

■ 電子情報工学コース

[Electronics and Computer Science Course]

4つの研究分野があり、応用電子工学系では、センシング・デバイスからプラズマ応用まで、制御情報工学系では、高速情報伝送、システム制御からAI処理までを研究しています。数理システム系では、現実の問題を数理科学によってモデル化し解決する研究を行い、情報システム系では、高度な情報システムを構築できる技術者を育成しています。

■ 社会環境科学コース

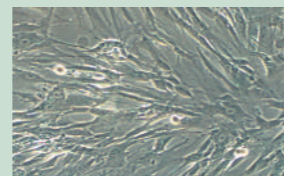
[Social Environmental Science Course]

3つの研究分野から構成されています。環境計画系では、高度な専門知識を有する建築技術者、造形計画系では、造形全般に深い造詣を有する建築意匠設計者やデザイナー、経営システム系では、マネジメントのエキスパートを育成しています。

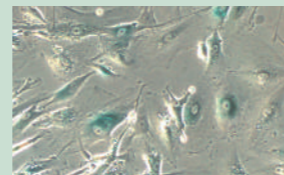
TOPIC がんや老化の原因遺伝子を解明し、その制御法を開発 ～細胞生物学研究室～

動物細胞培養技術や遺伝子工学を用いて、ヒトのがんや老化に関わる遺伝子を探索し、その機能解明を行っています。さらに、それら遺伝子の発現制御機構を明らかにし、抗がん剤やがん診断マーカーの開発など、創薬・医療・産業分野に貢献する研究をめざしています。近年の研究で、ヒトは「長鎖ノンコーディングRNA遺伝子」を1万種類以上持っていることが明らかになりましたが、その機能のほとんどは不明です。これまで、我々のグループはいくつかの長鎖ノンコーディングRNA遺伝子が、細胞老化・細胞

死・がん細胞増殖に関わることを明らかにしました。これら新規遺伝子の発現制御法を構築することで、従来とは全く作用機序が異なる薬の開発につながることを期待されます。遺伝子操作により、若いヒト線維芽細胞(A)に老化関連遺伝子を導入すると、細胞老化が誘導されます(B)。右写真の青く染色されている細胞が、老化した細胞(SA-β-gal染色法)です。遺伝子レベルでメカニズムを解明することにより、将来的に老化やがん化を防ぐ方法の開発につながる研究を行っています。



(A)若いヒト線維芽細胞



(B)遺伝子操作で老化が誘導されたヒト線維芽細胞



産業理工学研究科における
SDGs達成に向けた
取り組み

Graduate School
of Humanity-Oriented Science
and Engineering

研究科長メッセージ

明日の科学を切り拓く技術者を養成します

産業理工学研究科では、ハードサイエンスとソフトサイエンスの融合のもとに広い教養と深い専門知識を学修し、人格を磨くことを教育研究の理念としています。この理念のもと、実践的な知識や技術を習得し、実学の発展に貢献することの出来る人材を育成し社会に輩出するため、大学院および研究環境の充実を進めています。さらに、大学院では専門知識だけでなく、研究活動や学会発表などを通じ、論理的な考

え方や学び方、指導する力やコミュニケーション力など多様な力が鍛えられます。循環型知識基盤社会においては、自らの専門だけでなく、広い視野からものごとを俯瞰し思考できる人材が求められています。大学院で、最先端の知識、さまざまな人と協調し創造力を発揮することを身につけ、持続可能な社会を切り拓く気概に満ちた若者の育成をめざします。

研究科長 金島 岳 教授

● 産業理工学研究科の教育理念

本研究科では「ハードサイエンスとソフトサイエンスの融合」のもと、地球環境に調和し、持続可能な産業技術の進展を図り、循環型知識基盤社会の発展に貢献する人材を育成することを教育の目的としています。博士前期課程では、専門知識や技術を幅広く修得して基本的な研究能力と問題解決能力を養うとともに、関連分野の基礎的素養を修得し、日本の高度な最先端技術を担う技術者を育成します。また、博士後期課程においては、主体的に研究活動を展開する中、高度な専門知識と豊かな学識に裏付けされた新たな知見や技術を創出し、知識基盤社会をリードできる研究者を育成します。

● 授与する学位

博士前期課程/修士(工学) 博士後期課程/博士(工学)

● 進路イメージ

本研究科の修了生は、教員の研究指導により、高度な専門知識および社会人としての基礎力を修得しています。修了後は、各分野の第一線で活躍し、その実績は高く評価されています。就職に際しても、教員の指導の下、企業の希望する部門への就職が増えています。「専門を極めた者が勝つ」という信念を持って、就職過渡期を乗り切る体制を整えています。

● 各コースの研究領域

生物環境化学コース

- ◎細胞生物学
- ◎分子生物学
- ◎遺伝子工学
- ◎細胞医療工学
- ◎生物資源工学
- ◎微生物工学
- ◎地球環境工学
- ◎エネルギー工学

- ◎機能性食品工学
- ◎機能性材料工学
- ◎遺伝子医薬
- ◎ゲノム創薬
- ◎レーザー分光
- ◎医用高分子工学

電子情報工学コース

- ◎半導体デバイス
- ◎プラズマテクノロジー
- ◎パルスパワーテクノロジー
- ◎エネルギーデバイス
- ◎ロボティクス
- ◎通信工学、情報ネットワーク
- ◎計算機システム
- ◎知能情報処理(システム)

- ◎モバイルネットワーク
- ◎数理形態学
- ◎認知科学
- ◎教育支援システム
- ◎音声情報処理
- ◎画像解析
- ◎モーションキャプチャシステム
- ◎量子情報処理

社会環境科学コース

- ◎造形計画
- ◎環境計画
- ◎耐震構造工学
- ◎建築・都市環境工学
- ◎都市景観整備
- ◎防災システム工学
- ◎環境・住空間デザイン
- ◎中心市街地活性化
- ◎経営システム
- ◎アジア経営戦略
- ◎流通システム
- ◎金融システム
- ◎財務会計

在学生からのメッセージ

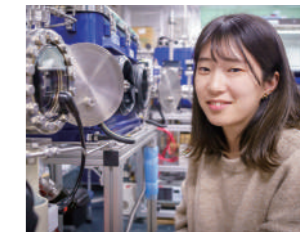
鉄のパワーで
抗菌・殺菌できる
安価な材料を作り出し
感染症予防に貢献



産業理工学専攻
博士前期課程 1年

鉄のイオンをガラス内に発現させ、抗菌および殺菌ができる材料の研究を行っています。鉄は殺菌効果があり比較的安価なため、銀やエタノール以外の抗菌・殺菌の選択肢が増えることで供給不足に陥る可能性を減らしながら、感染症拡大の防止に貢献できると考えています。

プラズマの
「見えない世界」を
シミュレーションで
解き明かしたい



産業理工学専攻
博士前期課程 2年

「水素希釈シランプラズマにおける微結晶シリコン成膜条件の数値解析」太陽電池用シリコン薄膜を作るプラズマの最適条件を、C言語で開発したシミュレーションで解明しました。実験では見えないプラズマ内部の粒子の動きを可視化し、なぜ特定の条件で良質な膜ができるのかを解明したいと考えています。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

産業理工学研究科の詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/hose/about/graduate/>

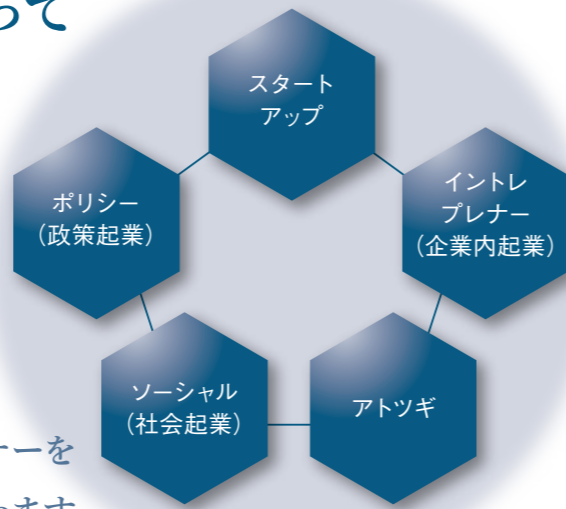
実学社会起業イノベーション学位プログラム

□ 修士課程



「起業」×「イノベーション創生」によって 社会課題の解決・社会変革に 挑戦する人材を養成します

既存の学問領域を超えた学位プログラムを設置して、多様化する社会のニーズや課題を研究テーマとして発見し、その課題を解決するための情報収集能力や知識技術を身に付け、高い倫理性をもって起業やイノベーション創生に従事することで持続可能な地球社会の共存と調和に貢献できる人材の育成を目指します。



多様なアントレプレナーを
「養成する人物像」として定めています

実学社会起業イノベーション学位プログラムの特長

多彩な講師陣

- 総合大学の強みを生かした多様な学部・研究科・研究科・研究科による講義。
- 起業家をはじめ、国内外の研究機関・行政・コンサルティング企業と社会で活躍する経験豊富な講師を招聘。

長期インターンシップ

- スタートアップ等の現場で2カ月以上のインターンシップを行い、イノベーション創生の能力を身に付ける。
- 起業している自身の会社での活動を、インターンシップとして単位認定可能。
※単位認定に関する事項のため担当教員と相談のうえ決定します

メディア授業の併用

- オンライン・オンデマンド形式の講義を多用することで、ワーク・スタディ・ライフバランスの充実が可能。

充実したメンタリング

- 文系教員1名+理系教員1名+学外メンター1名の合計3名以上による指導体制。
- 多様な学部出身者で構成する学生チーム制の導入*。
- ビジネスプランを特定の課題の研究成果としてまとめ、学位取得をめざす。
※1チーム4名程度の学生を想定、入学者数により前後する可能性あり

人脈形成

- 大阪にいながら東京で活躍する起業家・ベンチャーキャピタル(VC)の方々と会える。

教員 Voice



准教授
佐々木 まどか

本学位プログラムは近畿大学で唯一特定の学部には紐づかない大学院です。学内の様々な学部の出身者はもちろん、他大学出身者や社会人といった多様な背景を持つ学生が学んでいます。「起業・イノベーション創生によって社会課題の解決・社会変革に挑戦する人材の養成」を教育理念に掲げ、これを実現するため、社会で活躍する多彩な講師による講義や社会の現場を肌で感じる長期インターンシップ、若手ベンチャーキャピタリスト(VC)によるメンタリングなど、ここでしか経験できないプログラムを備えています。特にVCによるメンタリングでは、2年間をかけて、仮説設定・検証を繰り返して自身のビジネスプランを作り上げます。これらの過程を通して、学生は、自ら課題を見つけて解決するための思考やチャレンジする勇気、すなわち「起業家精神」を身につけていきます。これは、起業家だけでなく、皆さんが将来社会で何をやるにしてもとても大切なことです。さあ、皆さんも本学位プログラムで、自分の可能性を広げ、社会への扉を開けてください。お待ちしております！



実学社会起業イノベーション
学位プログラムにおける
SDGs達成に向けた取り組み

Transdisciplinary Graduate School
of Social Innovation
and Entrepreneurship

学位プログラム長 メッセージ

起業家精神を発揮し社会課題解決に貢献

政府は2022年11月に「スタートアップ育成5か年計画」を決定し、強力に起業家育成を支援しています。停滞した日本経済・社会を再興するためにはイノベーションが必要です。起業・社会課題解決をめざす熱意ある人々が

集い、切磋琢磨して革新的なビジネスプランを作り上げることが学位プログラムのゴールです。近畿大学とともに歴史の1ページを作りましょう！

学位プログラム長 浦上 拓也 教授

● 実学社会起業イノベーション 学位プログラムの教育理念

実学社会起業イノベーション学位プログラムの修士課程では、本学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に則り、法学・経済学・工学のみならず既存の学問体系を超えて、多様化する社会のニーズや課題を研究テーマとして発見し、その課題を解決するための情報収集能力や知識・技術を身に付け、高い倫理性をもって起業やイノベーション創生に従事することで、持続可能な地域社会の共存と調和に貢献できる人材を育成することを目的としている。

● 授与する学位

修士(学術)

● 進路イメージ

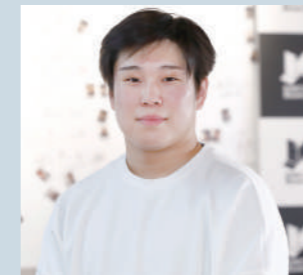
新しいビジネスモデルやテクノロジーを活用し、急成長をめざす企業(スタートアップ)を創業する起業家や企業の内部で自社のリソースを活用しながら新しい事業やプロジェクトを推進するイントレプレナー、家業を継ぐ立場にある次世代経営者(後継者)が、伝統的なビジネスを活かしつつ、新しい事業やイノベーションを起こすアツギベンチャーなどです。

● 研究分野例

- ◎スタートアップ起業家
- ◎アツギベンチャー起業家
- ◎ポリシー・アントレプレナー(政策起業家)
- ◎イントレプレナー(企業内起業家)
- ◎ソーシャル・アントレプレナー(社会起業家) など

在学学生からのメッセージ

高い退会率を
データ×UXで改善。
成果実感までの時間を
可視化する



修士課程 1年

フィットネス業界の課題である高い退会率に対し、データサイエンスとUXデザインの観点から研究しています。筋トレの効果が見えるまでのプロセスを可視化し、継続を後押しする行動変容の仕組みを設計。現在はビジネスとして成立させるため、導入コストを抑えるハードウェア構成の最適化にも注力しています。在学中に社会実装への道筋を確かなものにしたうえで、将来は大企業での新規事業立ち上げを通じて健康寿命の延伸に貢献したいと考えています。

不動産の所有を再定義し、
空き家問題の解決へ。
新たな社会像を
世界へ発信する



修士課程 2年

家業の不動産業を「アツギベンチャー」として成長させるため、本課程へ進学しました。新しい不動産の所有方法を提案し、ライフスタイルのイノベーションから空き家問題の解決をめざしています。深刻化の背景にある構造的課題を解明し、既存の枠組みにとらわれない持続可能な解決策を設計。さらに地域の住環境と資産形成の両面から事業化も検討しています。将来は、その価値を世界へ発信できる実業家として歩んでいきたいです。

*本誌に掲載されている学年表記は、取材時(令和7年度)のものです。

実学社会起業イノベーション学位プログラムの
詳細はWebをご覧ください。

<https://www.kindai.ac.jp/graduate/department/entrepreneurship/>

施設紹介

■ アカデミックシアター [東大阪キャンパス]

東大阪キャンパスに新しく誕生した、文理の垣根を越えて社会の諸問題を解決に導くための学術拠点。1号館から5号館の建物には、学生が主体的に学べる施設が充実しています。

● ラーニングcommons [1号館 1F]



座席数は約50席。稼動機に加えて、ファミレスのような固定席もあり、多様なニーズに対応。グループ学習での利用が中心の自習室です。

● CNN Café [4号館 2F]



日本の大学では初出店となるアメリカのニュース専門放送局「CNN」がプロデュースするカフェ。店内のモニターでは常時CNNのニュースが流れ、学生が気軽に英語に触れられる機会を提供しています。

● オープン・キャリアフィールド [2号館 2F]



キャリアセンター、リエゾンセンター、校友会(学園校友会)が同じフロアに配置し、学生だけでなく卒業生、企業人、地域住民などが行う様々な活動を支援します。

● ACT [5号館 1・2F]



「ACT(アクト)」と呼ばれるガラス張りの部屋が42室。社会の諸問題解決のため、学生や企業、地域が交わり、「近大デザインラボ」「KISS LABO」など、様々なプロジェクトに取り組んでいます。学生主体の議論、企業とのコラボレーションといった実学を体現する空間です。

● 24時間自習室 [3号館 1F/2F]



座席数は1Fは約100席、2Fは約150席。新幹線のような座席予約システムを導入し、スマートフォンからいつでも予約できます。1Fの自習室は女性専用です。

● ビブリオシアター(図書スペース) [5号館]



知の巨匠、編集工学研究所長の松岡正剛氏監修のもと、独自の図書分類「近大INDEX」によって約7万冊の書籍等を収蔵した新しい図書スペースです。1階は「NOAH33(ノア33)」と名付けて一般図書を中心に約3万冊を配架、2階の「DONDEN(ドンドン)」は、マンガ、新書、文庫を中心に約4万冊を配架しています。

■ 中央図書館 [東大阪キャンパス]



学生への教育・学習支援、教員への研究支援に積極的に取り組み、知の継承と創造の中核としての役割を担っています。年間約330日開館(自習室は約350日開室)しており、入館者数は年間約180万人に及びます。

■ 英語村E³ (e-cube) [東大阪キャンパス]



「遊びながら英語を楽しく学ぶ」のコンセプトを徹底して実践する「英語の遊び場」。日本の大学で初めてとなるユニークな試みは、「英語嫌いだっ」学生たちと英語との距離をぐんぐん縮めています。

■ 情報処理教育棟(KUDOS) [東大阪キャンパス]



最新IT機器を使い、学生たちが自由に学習できる施設。学生は、アカウントが与えられ学内外どこからでも、アクセスしKUDOSの様々なサービスを活用できます。

■ 多目的ホール「つながる館」 [奈良キャンパス]



古都奈良をイメージした寄棟屋根の和モダンな空間が2020年に誕生。3つのエリアで構成され、学生同士、教職員はもちろん、地域、日本や世界の知識や経験と無限に「つながる」拠点です。

■ 圃場 [奈良キャンパス]



広大な敷地を利用した、キャンパス内の圃場。本格的なハウス設備や実験圃場では、実習や研究が盛んに行われています。

■ 第2共同研究棟 [奈良キャンパス]



実験ゾーン、飼育ゾーンなどの施設を完備。研究・教育の拠点として活用されています。

■ 分子形態共同研究室 [おおさかメディカルキャンパス]



透過電子顕微鏡、走査電子顕微鏡を備え、臓器の細胞内小器官や表面の細胞立体像をミクロ、ナノレベルで観察・分析可能です。

■ 分析機器共同研究室 [おおさかメディカルキャンパス]



基礎医学、臨床医学共同の研究用機器として、タンパク質や遺伝子解析を行う分析装置が多数設置。細胞工学関連の解析装置も充実しています。

■ 図書館 [おおさかメディカルキャンパス]



座席数214席、図書約42,000冊、製本雑誌約69,000冊計111,000冊以上保有。年間約360日開館しており、教員・学生の学習・教育・研究支援の場となっています。

■ 高圧力蛋白質研究センター [和歌山キャンパス]



圧力を利用して蛋白質の働く仕組みを解明するとともに、その応用を開拓するための施設です。

■ 図書館 [和歌山キャンパス]



書籍のほかパソコンやオーディオ機器・学習室を設置し学習や資格取得を強力にサポートします。

■ メディアセンター [広島キャンパス]



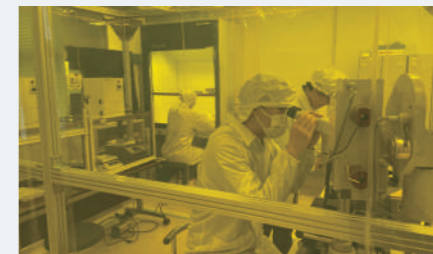
アクティブラーニングに対応した教室と、図書館が一体となった教育・研究活動のための施設です。

■ TERACO LAB.(テラコ・ラボ) [広島キャンパス]



学生同士が交流しながら学びを深め合うことを目的として設置された共同学習スペースです。

■ 半導体デバイス作製実習室 [福岡キャンパス]



イエロークリーンブースと基本的なデバイス作製機器を備え、電子工学の要のひとつである半導体素子を、作りながら学ぶことができる実習室です。

■ 図書館 [福岡キャンパス]



授業期間の平日は21時まで開館しており、学術雑誌等が充実した電動書架や「地域資料室」も設けられた、知の交流拠点です。

学位一覧

【研究科・専攻・課程・授与する学位】

研究科	専攻	課程	授与する学位	
			修士	博士
法学研究科	法学専攻	博士前期課程	修士(法学)	博士(法学)
		博士後期課程		
商学研究科	商学専攻	博士前期課程	修士(商学)	博士(商学)
		博士後期課程		
経済学研究科	経済学専攻	博士前期課程	修士(経済学)	博士(経済学)
		博士後期課程		
総合理工学研究科	理学専攻	博士前期課程	修士(理学)	博士(理学)
		博士後期課程		
	物質系工学専攻	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)
		博士後期課程		
	メカニクス系工学専攻	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)
		博士後期課程		
	エレクトロニクス系工学専攻	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)
		博士後期課程		
	環境系工学専攻	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)
		博士後期課程		
エネルギー理工学専攻	修士課程	修士(理工学)	—	
	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)	
博士後期課程				
建築学研究科	建築工学専攻	修士課程	修士(工学)	—
	建築デザイン専攻	修士課程	修士(建築学)	—
情報学研究科	情報学専攻	修士課程	修士(工学)	—
薬学研究科	薬学専攻	博士課程	—	博士(薬学)
	薬科学専攻	博士前期課程	修士(薬科学)	博士(薬科学)
博士後期課程				
総合文化研究科	日本文学専攻	修士課程	修士(文学)	—
	英語英米文学専攻	修士課程	修士(文学)	—
	文化・社会学専攻	修士課程	修士(文化学)	—
			修士(社会学)	—
心理学専攻	修士課程	修士(心理学)	—	
農学研究科	農業生産科学専攻	博士前期課程	修士(農学)	博士(農学)
		博士後期課程		
	水産学専攻	博士前期課程	修士(農学)	博士(農学)
		博士後期課程		
応用生命化学専攻	博士前期課程	修士(農学)	博士(農学)	
	博士後期課程			
環境管理学専攻	博士前期課程	修士(農学)	博士(農学)	
	博士後期課程			
バイオサイエンス専攻	博士前期課程	修士(農学)	博士(農学)	
	博士後期課程			
医学研究科	医学系専攻	博士課程	—	博士(医学)
生物理工学研究科	生物工学専攻	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)
		博士後期課程		
	生体システム工学専攻	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)
博士後期課程				
システム理工学研究科	システム工学専攻	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)
		博士後期課程		
産業理工学研究科	産業理工学専攻	博士前期課程	修士(工学)	博士(工学)
		博士後期課程		
実学社会起業イノベーション学位プログラム		修士課程	修士(学術)	—

学費

単位:円

博士前期課程/修士課程 研究科		費目			
		入学金	授業料 □内前期納入分	学生健保 共済会費	合計
法学研究科 商学研究科 経済学研究科 総合文化研究科	1年次	200,000 (※100,000)	700,000 (350,000)	4,500	904,500 (※804,500)
	2年次	—	750,000 (375,000)	4,500	754,500
総合理工学研究科 建築学研究科 情報学研究科 薬学研究科	1年次	200,000 (※100,000)	950,000 (475,000)	4,500	1,154,500 (※1,054,500)
	2年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500
実学社会起業 イノベーション 学位プログラム	1年次	200,000 (※100,000)	825,000 (412,500)	4,500	1,029,500 (※929,500)
	2年次	—	875,000 (437,500)	4,500	879,500
農学研究科 生物理工学研究科 システム理工学研究科 産業理工学研究科	1年次	200,000 (※100,000)	950,000 (475,000)	4,500	1,154,500 (※1,054,500)
	2年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500

博士後期課程 研究科		費目			
		入学金	授業料 □内前期納入分	学生健保 共済会費	合計
法学研究科 商学研究科 経済学研究科	1年次	200,000 (※不要)	700,000 (350,000)	4,500	904,500 (※704,500)
	2年次	—	750,000 (375,000)	4,500	754,500
	3年次	—	770,000 (385,000)	4,500	774,500
総合理工学研究科 薬学研究科	1年次	200,000 (※不要)	950,000 (475,000)	4,500	1,154,500 (※954,500)
	2年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500
	3年次	—	1,030,000 (515,000)	4,500	1,034,500
農学研究科 生物理工学研究科 システム理工学研究科 産業理工学研究科	1年次	200,000 (※不要)	950,000 (475,000)	4,500	1,154,500 (※954,500)
	2年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500
	3年次	—	1,030,000 (515,000)	4,500	1,034,500

奨学金

勉学意欲が旺盛であり、経済的理由によって修学困難な学生に対して、学資の一部を給付あるいは貸与する奨学金制度があります。なお、詳細については奨学金担当窓口(東大阪キャンパスは学生部(奨学金担当窓口)、その他のキャンパスは各学生センターの担当窓口)にお問い合わせください。

取扱機関	種別	奨学金・教育ローンの名称	金額	採用(申込)等の対象者	令和7年度実績(人)	出願期間	採否決定	備考
近畿大学	給付	世耕弘一奨学金	年額300,000円	人物・学業ともに優秀でありながら、経済的に学資の援助を受けることが必要であると認められる人。他の奨学金団体に給付を受けていない人。	院24	6月	9月末	毎年申請必要(人物・学力・家計について近畿大学奨学金の基準に照らして行います)
	貸与(無利子)	近畿大学奨学金	年額600,000円	人物・学業ともに優秀でありながら、経済的に学資の援助を受けることが必要であると認められる人。日本学生支援機構の第二種奨学金の家計基準を満たしている人。	院10	4月	7月	毎年申請必要(人物・学力・家計について近畿大学奨学金の基準に照らして行います)
	貸与(無利子)	近畿大学応急奨学金	年額600,000円	1年以内に家計支持者の失職・破産・倒産・離別・病気・死亡等により、家計が急変し、学業の継続が困難な者。	0	随時	随時	
日本学生支援機構	貸与(無利子)	近畿大学災害特別奨学金	年額600,000円	過去5年以内に災害に遭い、「罹災証明書」が発行され、経済的理由により修学が困難な者。	0	随時	随時	
	貸与(無利子)	日本学生支援機構 第一種奨学金	月額 下記金額から選択制 博士前期課程(修士) 50,000円・88,000円 博士後期課程 80,000円・122,000円	成績が特に優れ、学術研究者として適格と認められる人。本人および配偶者の収入金額の合計額 博士前期課程(修士):299万円以下 博士後期課程:340万円以下	採用142	4月	6月	第一種奨学金には「特に優れた業績による返還免除制度あり。家計急変等から1年以内の人(緊急採用)は随時受付
	貸与(有利子)	日本学生支援機構 第二種奨学金	月額 下記金額から選択制 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円	成績が特に優れ、学術研究者として適格と認められる人。本人および配偶者の収入金額の合計額 博士前期課程(修士):536万円以下 博士後期課程:718万円以下	採用21	4月	6月	家計急変等から1年以内の人(緊急採用)は随時受付
地方公共団体・民間育英団体	給付	公益財団法人 アイコム電子通信工学振興財団 公益財団法人 トランスコスモス財団 公益財団法人 小野奨学会 公益財団法人 昭憲記念財団 他	月額 50,000円 月額 50,000円 月額 80,000円 月額 25,000円	各団体の指定する申込資格のある人	若干名		各団体の指定する期間	

令和8年3月1日現在

授業料後払い制度

令和7年度から大学院修士段階(修士課程・博士前期課程)の授業料について、在学中の授業料を国が立て替え、返還は卒業後の所得に応じた「後払い」とする仕組みが創設されました。なお、この制度に関するお問合せは大学院・共通教育学生センター(18号館北棟1階)にお問い合わせください。

対象となる方(以下のすべてを満たす者)	前期授業料の猶予	入学手続きの費目 ^{※1}	希望する場合の書類等提出について
●令和7年度以降に国内の大学院修士課程(博士前期課程及び専門職学位課程を含む)に進学した者。●本人の希望に基づき、在学を通じて申請を行った者。●日本学生支援機構(以下、「JASSO」)の修士段階を対象とした月額5万円又は8万8千円の第一種奨学金(以下単に「第一種奨学金」という。)と同様の家計基準及び学業成績基準を満たす者。●過去に貸与を受けた奨学金の返還が滞延中である等、第一種奨学金の貸与を受けられない事由がない者。	●対象者に対して、入学手続きを行うべき前期授業料の納付を大学が指定する日まで猶予します。●本制度に認定された場合は、猶予された前期授業料も後払いの対象となります。	適用前 入学金 + 前期授業料 + 諸会費 適用後(前期授業料が猶予) 入学金 + 諸会費	●提出書類:「授業料後払い制度」希望申請書、xlsxを本校HPよりダウンロードし、入力してください。●提出締切日:各入試の出願期間内 ^{※2} (出願書類に同封してください)●提出先:出願する研究科(出願書類に同封してください)

※1.入学手続きは所定の期間内に納入してください。※2.出願期間内に提出いただければ受付できませんのでご注意ください。

博士課程 薬学研究科	費目			
	入学金	授業料 □内前期納入分	学生健保 共済会費	合計
1年次	200,000	1,000,000 (500,000)	4,500	1,204,500
2年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500
3年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500
4年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500

博士課程 医学研究科	費目			
	入学金	授業料 □内前期納入分	学生健保 共済会費	合計
1年次	200,000	1,000,000 (500,000)	4,500	1,204,500
2年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500
3年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500
4年次	—	1,000,000 (500,000)	4,500	1,004,500

備考

1.入学時納入金は、入学金、授業料[前期分]、学生健保共済会費の合計額です。2.※印は本学の学部および大学院を卒業見込・修了見込の者が、博士前期課程または修士課程に進学する場合、ならびに本学の大学院博士前期課程または修士課程を修了見込の者が、博士後期課程に進学する場合に適用されます。3.授業料[後期分]の納入期は、10月です。4.表示額以外に、校友会終身会費30,000円が必要です(入学年次に20,000円、最終年次に10,000円)。入学後、校友会の準会員となり、卒業後、正会員になります。なお、既に校友会終身会費を全額納めている者は不要です。5.医学研究科基礎医学系の専攻分野に入学した場合、選考のうえ年額50万円の奨学金給付制度があります。6.経済学研究科の夜間主コースに入学する社会人には、学費減免制度があります。詳細については、経済学部学生センター大学院入試係にお問い合わせください。7.農学研究科では博士前後期課程ともに学費減免制度があります。詳細については、奈良キャンパス学生支援課にお問い合わせください。8.総合文化研究科心理学専攻臨床心理学コースでは、実習費として100,000円(年額)が別途必要となります。9.上記は令和8年度入学時の金額ですので、変更される場合があります。予めご了承ください。